

受 驗 者 必 携

177

24

第一高等學校教授 前田儀作編  
學士長澤市藏序 鈴木榮藏訂

萬國歷史試驗問題答案

東京 上原書店發兌



受 驗 者 必 携

# 萬國歷史試驗問題答案

上 原 書 店 發 兌

受 驗 參 考 書 目

物理學試驗答案

全一冊  
定價金十錢  
郵稅金十錢

東京物理學校高野瀧宗則君開○鈴木榮藏編

化學試驗答案

全一冊  
定價金十錢  
郵稅金十錢

第一高等學校保田棟木君開○鈴木榮藏編

前田安治編○鈴木榮藏訂

萬國地理試驗答案

全一冊  
定價金十錢  
郵稅金十錢

生理學試驗答案

近刊

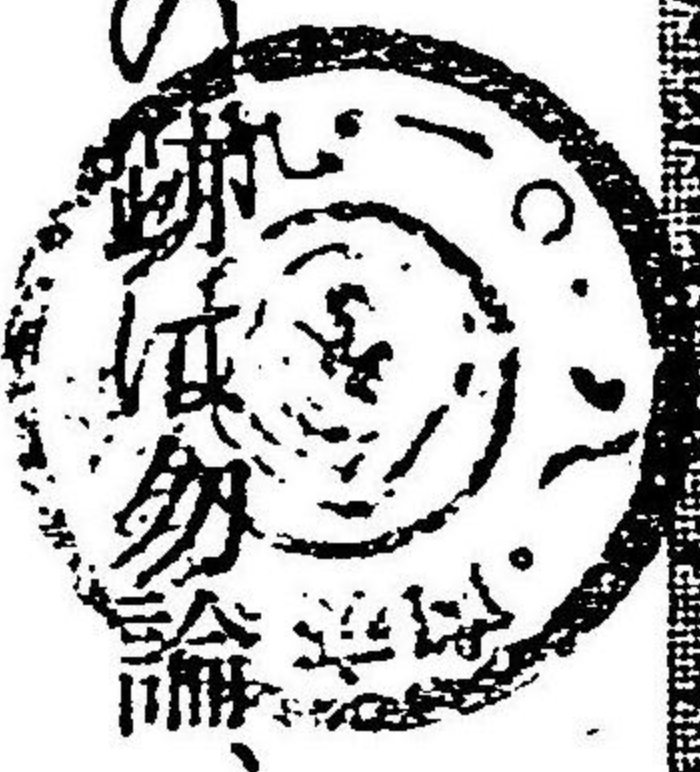
博物學試驗答案

近刊



萬國歴史試験問題 答案序

完全なる歐洲の歴史を繙ひて之を通讀すれば治亂興亡の跡は勿論、風俗宗教政治法律の沿革、文明の消長に至るまで之を會得するは甚だ容易なるが如く思はるゝなれど又退て熟々考ふれば大に然らざるものあり現に其學問知識は博覽達識にして揚々として政治法律を談論し得意に文學美術を説解せる青年の俊秀に向ひて卒然、治亂興亡の由て來る所以、政治制度風俗慣例宗教教育の由て以て沿革する所以を問はゞ即時に答ふる能はざるもの蓋し十に八九、是れ何に故ぞや、彼れ固より完全なる歴史を讀まざるにあらざるべし治亂興亡の跡、風俗宗教政治法律の沿革、文明の消長等を見ざるにあらざるべし然れども漠然として之を讀、漠然として之を見、如此事情は何より來





るか彼れが如き形勢は何に由て招きたるか一々其原因結果を檢尋して其緊要の項目を捕捉し居らざればなり否捕捉し難ければなり今頃、前田氏萬國歴史試験問題答案てふ一書を編纂し來りて序を余に求む余受けて之れを閲するに政變戰亂の跡は言を待たず風俗宗教文物藝術等の消長變遷に就て一々疑問を設け之れが因果の關係を説明す蓋し之れを讀んで歴史の歴史たる活用を爲すを得べし是歴史初學の輩必ず讀むべきの書にして其功用豈啻に諸學校入學受験者而已に止まらんや

文學士 長澤市藏

## 目次

### 萬國歴史試験問題答案目次

- 第一章 緒論……………一頁
- 第二章 上古史……………七頁
- 第三章 中古史……………五十二頁
- 第四章 近世史……………八十五頁

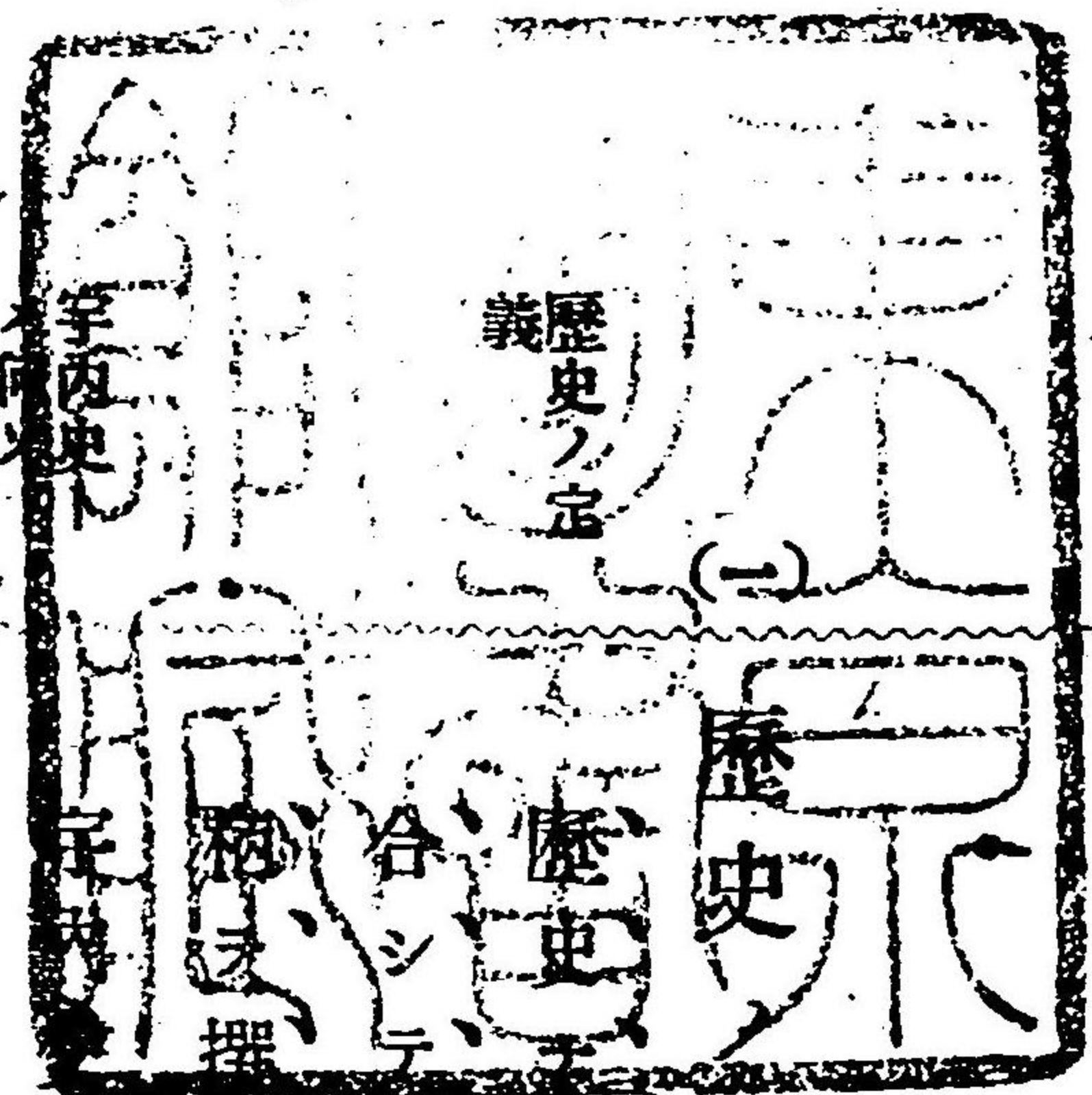
## 次

### 萬國歴史試験問題答案目次 終



萬國歴史 試験問題 答案

鈴木榮藏訂  
前田儀作編



第一章 緒論

定義ヲ述ベヨ

ルモノハ或ル社會ヲ組織シタル人類ガ進化ハ大勢ニ向背離  
合シテ興亡盛衰セル因果ノ關係ヲ明白ニスルニ足ルベキ緊要ノ事  
トシテ其來歴ヲ叙スルモノナリ

トハ全世界ノ人類ヲ進化ノ點ヨリ乃チ歴史ノ定義ニ照シテ  
觀察シ統括シ之レガ來歴ヲ叙スルモノヲ云フ

一國史トハ一國家ノ人類ヲ進化ノ點ヨリ乃チ歴史ノ定義ニ照シテ  
觀察シ統括シ之レガ來歴ヲ叙スルモノヲ云フナリ

一國史トハ何ゾ

緒論



(二)

### 高架索人種ノ區分及ビ各派ノ特質ヲ擧ゲヨ

歴史定義  
上ノ人種  
トハ如何  
ナル人種  
ヲ指スヤ

ありやん  
派は如何

せみちつ  
く派ハ如何

若シ歴史ノ定義ハ第一題ノ答案ノ如クニシテ、誤謬ナキモノナリセ  
ハ白哲人種即チ高加索人種コソ最モ文明ニ與ツテカアルモノナレ  
ハ所謂歴史定義上ノ人種ト稱スルニ足ルベキモノハ獨リ此人種ア  
ルノミ而シテ此人種ハ總テ三派ヨリ成立ツ三派トハ  
第一「ありやん派」ナリ此派ノ包含スル所ハ最モ廣クシテ亞細亞古代  
ノ印度人ヘルシヤ人ハ勿論合衆國人及歐羅巴古今ノ國民ノ大概ハ  
皆此派ニ屬ス此人種ハ夙ニ智力上ノ發達ヲナシ世界進歩ノ大劇場  
ニ於テ常ニ重要ノ優技ヲ演ヅタリ  
第二「せみちつく派」ナリ此派ハ亞西里亞人希伯來人非尼士亞人亞刺  
比亞人等ヲ包含ス此人種ハ夙ニ宗教上ノ熱心ヲ以テ顯ハル彼ノ唯  
一神ノ道ヲ教ユル猶太教基督教及ビ回々教ノ如キハ皆此人種中ヨ  
リ發生セリ

はみちつ  
く派ハ如何

(三)

第三「はみちつく派」ナリ此派ハ埃及人及ビ古代ノ加耳特亞人ヲ包含  
ス此人種ノ著シキ特質ハ建築構造ノ雄偉宏壯ナルコトナリ  
「ありやん人種」ハ何故に分居スルニ至リシヤ及ビ何地  
ニ移住セシヤ

上古史以  
前ノあり  
やん人ノ  
概況ハ如何

戸口繁殖  
ノ結果如何

紀元前幾千年ヲ知ラザル昔ニ在テ亞細亞洲ノ南西ばくとりや地方  
ニ於テ一民種ノ共居スルアリ已ニ野蠻ノ域ヲ脱シ家屋建築ノ術耕  
耘培養ノ法ハ勿論家族ノ制度政府ノ組織等モ已ニ成立チシ一ハ父  
母兄弟姉妹國王會議國會政府上帝等ノ語アリシニ徴シテ明カナリ  
然リト雖モ戸口漸ク繁殖スレハ隨テ散布分裂スルニ至ルハ天理自  
然ノ常數ニシテ星霜ヲ經ルノ久シキ次第ニ各地ニ分居ス各地ニ分  
居スルガ故ニ交通漸ク疎濶トナル交通疎濶トナルガ故ニ言語漸ク  
變化シ遂ニハ全ク言語ヲ異ニシ風俗ヲ異ニシ人情ヲ異ニシタル所  
ノ新國民ヲ生スルニ至レリ







歴史ノ通期  
ニ分テハ  
上古史  
中古史  
近世史  
何年ニ始  
終ルハ  
何年ニ始  
終ルハ  
何年ニ始  
終ルハ  
テハ如何  
ハ如何

歴史ノ分ツ  
メハ如何  
メハ如何  
メハ如何

埃及ノ歴史  
ノ最古  
ノ最古  
ノ最古  
ノ最古  
ノ最古

尼緑河  
ガ故  
ニ利  
建  
ナ  
埃  
何  
ノ  
因  
ハ

各人ノ運命  
ノ時ニ定

(五)

(六)

六

歴史ノ期限ハ通常ニ之ヲ分チテ三期トナス(第一)上古史(第二)中古史(第三)近世史是レナリ

上古史ハ上世ノ東洋諸國ノ歴史ヨリ紀元四百七十六年西羅馬帝國ノ滅亡マデ

中古史ハ西羅馬帝國ノ滅亡ヨリ紀元一千五百年代マデ

近世史ハ紀元一千五百年代ノ終リヨリ現時マデ

歴史ノ期限ハ史家各多少ノ相違アリ或ハ單ニ古代今代ノ二期ニ分

ツモノアリ此二期ニ分ツモノハ耶蘇紀元後四百七十六年西羅馬帝

國ノ滅亡ヲ以テ分割點トナシ之レヨリ以前ヲ古代史ト云ヒ以後ヲ

近代史ト云フナリ

扱テ歴史ヲ三期ニ分ツモ又ハ二期ニ分ツモ畢竟實際ノ便宜ヨリ出

テシモノニシテ歴史ハ其實古往今來綿々トシテ連續シタルモノナ

リ

## 第二章 上古史

埃及ガ世界萬國中ノ最古國ナル理由如何

埃及ハ必ラズシモ最古ノ國ニハアラザルベシトスルモ其歴史ハ則チ最古ノ歴史タルコト疑ヒナシ蓋シ其古蹟記録及ヒ文學ノ如キハ世ニ古國ト稱セラル、印度及ヒ加耳特亞ノモノニ比スレハ更ラニ古キヲ以テナリ

尼緑河畔ハ必ズヤ人間社會ノ初メテ起リタル原地ノ一ナリト想像スルモ敢テ其理ナキニアラズ何トナレバ此兩岸ハ食物ヲ得ルニ易クシテ最モ社會ノ創建ニ便利ナル事情アレバナリ故ニ埃及文明ノ原因ハ尼緑河ナリト云フベシ又尼緑河畔ハ首トシテ一國ヲ肇造シ人間社會ノ濫觴ノ地タルヲ知ルベシ

埃及ノ階級制度及其結果如何

埃及ノ社會ニハ階級制度アリテ各人ノ運命ハ生時已ニ定ル詳ニ云

上古史

七



ルカ

何僧侶ハ如

何武人ハ如

何下級ハ如

文運何故  
不振何故  
至有様

(七)

八

へバ僧侶ノ子孫ハ必ス僧侶タラザルベカラス農夫ノ子孫ハ必ス農夫タラザルベカラザルノ習慣ニシテ智愚賢不肖ノ區別ナク皆父祖ノ箕裘ヲ續キ父祖ト同様ナル身分ニ安居セザルベカラザルノ制度ナリ階級ニ三大別アリ(第一)僧侶(第二)武人(第三)下級是レナリ

(第一)僧侶ハ富強ヲ極メ最モ權勢ヲ有シタルモノニシテ其爲ス所ハ獨リ宗教上ノ事ニ止マラズ醫術、數學、法律等ノヲモ取扱フナリ此階級ノ人民ハ頗ル國王ノ優待ヲ受ケ十分政府ノ俸祿ヲ得タル而已ナラズ全國三分ノ一ヲ領シ之ヲ子孫ニ遺傳シ更ラニ租稅ヲ拂フコトナシ

(第二)武人ハ弓手、鎗手、劍士、棒兵等アリテ其數大約四十萬ヲ下ラズ毎一人八、エトクル(我がエトクルハ)ノ土地ヲ有ス全階級ノ所有ヲ合算スレバ是亦全國三分ノ一ニ達シ僧侶ト同ク更ニ租稅ノ負擔ヲ被ルコトナシ其權勢僧侶ニ次ギテ國家樞要ノ地位ヲ占有セリ

(第三)下級乃チ民庶ハ遙カニ僧侶、武人ノ二階級ヨリ下リタル地位ニシテ毫モ政治上ノ權力ヲ有スルコト能ハズ又不動産ヲ所有スルコト能ハザルナリ下級ニ數種アリ第一種ハ農夫、獵夫、舟子等ニシテ第二種ハ商人、工人、機械師等ナリ第三種ハ牧人、僱夫等之レニ屬セリ牧者中特ニ下賤ナルモノハ豚ヲ飼フモノニシテ殆ント禽獸ト同視セラレテ神廟ニ入ルヲ得ズ

埃及ノ歴史ヲ繙キツラ々々盛衰ノ跡ヲ觀察スルニ其文運ノ夙ニ發達シタルニモ拘ハラズ中途ニシテ百事ノ進歩改良ヲ妨礙シ又人民ノ希望心、競争心ヲ挫折シ一般怠弛ノ状態ヲ來タサシメタルハ全ク此階級制度ニ外ナラズ然ラバ則チ階級制度ハ其弊害甚フシテ國民衰微ノ一大原因ナリト云フベシ

### 巴比倫ノ文化ノ程度如何

巴比倫ハ「だいくりす」ゆーふらちすノ兩大河ノ邊ニ於テ興起セシ三



才智學問  
ハ如何

大王國ノ一ニシテ其人民ハ「せみちつく」はみちつく「兩人種ノ混淆セ  
シモノニシテ其性質ハ亞西里亞人ト異ナル所アリ其才智學問ハ猶  
太著述家希臘歴史家ノ共ニ賞賛スル所ナリ又深ク天象ヲ觀察シ大  
ニ數學ヲモ研究ス希臘人明言シテ曰ク學問ニ在リテハ巴比倫人ハ  
教導者ニシテ希臘人ハ其門人ナリト又以テ其文化ノ程度ノ下低ナ  
ラザリシヲ知ルベシ

但シ三大王國トハ第一前巴比倫一名加耳特亞第二亞西里亞第三後  
巴比倫是レナリ

猶太人ハ如何ナル事業ヲ以テ世界ノ文明ニ重大ナル  
影響ヲ及ボシタルヤ

猶太ハ全國長サ僅ニ一百五十里廣サ殆ンド五十里ノ地タルニ過ヤ  
ス其政治ノ威勢ハ東方諸大帝國亞西里亞巴比倫埃及べるしや等ニ  
及バザル遠シ技藝學問等ハ古代文明ニ影響ヲ及ボスコト少シ

猶太人ハ  
希伯來人  
又イスラ  
エル人ト  
モ稱ス  
其土地ハ  
如何ナル  
政治ハ如  
何ナル  
技藝學問

(八)

ハ如何

宗教ノ眞  
理ト道徳  
ノ思想ガ  
如何ナル  
如キナル  
働キナル  
セシヤナ  
舊約全書

然レドモ其國人ノ奉シタリシ宗教ハ今日文明國民ノ一般ニ信仰セ  
ル基督教ノ基本トナリ又神聖ナル聖蘇基督モ實ニ此國ニ於テ降誕  
セシヲ以テ其宗教ノ眞理ト其道徳上ノ思想ヲ以テ世界ノ文明ニ重  
大ナル影響ヲ及ボシタルハ殆ンド他國人ノ夢想タモ及フ能ハザル  
所ナリ詩人聖賢ノ著述シタル書ニ舊約全書ト呼バル、アリコハ是  
レ人々ガ永遠無窮尊敬シテ止マザル所ノモノナリ(第三十三題ヲ看  
ヨ)

古代地中海濱ニ於テ熾ニ通商貿易ニ從事セシハ何國  
ナルヤ及其國人ノ性質ヲ述ベヨ

非尼士亞人ハ地中海岸ニ於テノ殖民貿易ノ先鞭者ニシテ同ツク之  
ニ從事セシ競争者希臘人ニ比較スレバ更ニ舊シ凡ソ紀元前第九世  
紀ノ頃非尼士亞人亞弗利加ノ北岸ニ「カトセ」チ殖民地ヲ創建セリ  
是レ非尼士亞殖民中最モ著名ナルモノニシテ紀元前第三世紀頃羅

非尼士亞  
殖民中最  
モ著名ナル  
何ナルモノ  
ハナ

(九)







度住所ヲ  
移セシヤ

何故ニ  
統大ニ  
レシヤ

元前三千年ノ頃更ラニ「いんだす」河ヲ渡テ該河ト「げやむな」河トノ間ニ住ヒシガ其後幾ナラズシテ「ヂいんでいあ」山脈ノ北ニ位スル全土ヲ領セリ

此時ニ當リ印度半島ニハ土着ノ黑人種アリシガ倏チ白哲人種ナル「ありやん」人ニ從ヘラレ「ありやん」人遂ニ全國ニ蔓延ス然ルニ歲月ヲ經ルニ隨ヒ土人ト雜婚シテ血統大ニ亂レ其風俗思想ニ染ミ遂ニ「ありやん」人タル固性ヲ失ヒ殆ント黑人ト異ナル所ナシ是レ印度文明ノ一種特別ナル所以ナリ蓋シ「ありやん」人ハ概シテ進取力行ノ人種ナリト雖モ印度人ハ文學、哲學ニ著シキ進歩ヲ爲セシ後停止シテ世界歴史ノ本體ニ影響セルト甚タ少シ然ルニ其同族「べるしや」人ハ土人ト混淆スルトナキヲ以テ印度人ニ比スレバ更ラニ發達進歩シ歐羅巴ノ「ありやん」族即チ希臘羅馬「ちゆうとん」人等ト類似シタル所多シ

婆羅門教  
ハイカン

(二十)

### 印度宗教ノ一斑ヲ語レ

印度ニハ二種ノ宗教アリ一ヲ婆羅門教ト爲シ他ヲ佛教トナス婆羅門教ハ所謂萬有神教ニシテ宇宙ヲ目シテ神ト爲スモノナリ其旨ニ曰ク「宇宙ハ神ニ歸シ萬物ハ神ヨリ生シ神ハ萬物ト胞合スト又曰ク總テ存在スルモノハ皆テ神ナリ人々ノ見ル所聞ク所味フ所觸ルハ所一トシテ神ナラザルハナシト」又此宗教ノ要旨ハ「靈魂ノ移轉ニシテ靈魂ガ肉體ト結合シテ此世界ニ形ヲ現ハスハ過去ノ罪業ノ爲メナレバ此世界ノ存在ハ責罰ノ時ナリ故ニ人間タル者ハ只管禮拜、供養、懺悔、清淨、以テ其罪ヲ輕減スベシ然ル時ハ靈魂娑婆ヲ去リテ宇宙ナル神明ノ中ニ吸收セラレベシ若シ然ラザレバ下等動物ノ肉體ニ結合シ娑婆ニ漂泊シテ苦ミテ受クルモノナリト云フニアリ

佛教ハ紀元前第六紀ニ新ニ起リシ宗教ニシテ之ヲ創ムルモノハ太子悉陀ナリ是レ何ゾ婆羅門ノ腐敗シタルト社會ノ道德ノ壞亂シタ

佛カ○此  
教ハ○概  
シテ人



ナノ知ル所  
テカ細ニ以

(三十)

さいらす  
ハ在りテヤ  
ニ如ナリテ  
事ヲナセル

版圖ノ廣  
サ如何

ルトテ大ニ慨歎シタルヨリノ結果ニアラザルヲ得ンヤ實ニ當時其  
人心風俗ノ一變革ヲ致シタルハ疑フ可ラズ而シテ此新教ハ速ニ蔓  
延シ今日ニ在リテモ世界人類ノ三分ノ一ハ之ヲ信奉スルナリ  
「ペルシヤ」大王さいらすノ事業ヲ問フ

さいらすハ嘗ニ勇猛敢爲ナリシノミナラズ頗ル英邁ニシテ機略ニ  
富メリ夙ニ大志ヲ懷キテ武威ヲ國外ニ耀カサントテ欲ス其めじや  
ニ在ルヤ歲月ヲ積ムノ久シキニ從ヒ次第ニ其國情ニ通シ人民ノ久  
シク泰平ニ狎レ愈々遊惰ニ陥リシコトヲ察シ乃チ「ペルシヤ」人ヲシ  
テ叛旗ヲ舉ケシメ紀元前五百五十八年遂ニ其獨立ヲ回復セシノミ  
ナラズめじやヲ併呑シテ西方亞細亞ニ強大ナル一國ヲ建テタリ  
さいらす又小亞細亞ノりじやノ王くりーさすヲ攻メ降シ「はりす」河  
以西小亞細亞ノ全部ヲ領シ又巴比倫城ヲ陷レテ巴比倫ヲ顛覆シ其  
他處々ヲ征略シテペルシヤノ國威ヲ亞細亞ノ西部ニ耀カシ版圖ノ

何故ニ東  
西洋ノ異  
史カ異ナ  
ルカ異ナ  
明ハイカ  
明ハイカ  
歐洲ノ文  
明ハイカ  
東洋ノ文  
史ハ何ノ  
希羅ノ馬  
何ノ歴史  
ノ歴史ハ

(四十)

廣キ「東西」ハ印度河ヨリ「へれすばん」と海峽ニ至リ南北ハ「ぢやきど  
あちす」河ヨリ叙利亞海邊ニ至ル銳意盡力「ペルシヤ」ヲ亞細亞ノ一大  
帝國ト爲シ成テ守リ國本ヲ固フスルノ事業ヲ子孫ニ遺ス實ニ「さい  
らす」ハ創業ノ英主ニシテ「ペルシヤ」諸王中其比ヲ見ザル所ナリ

### 古代東西洋歴史ノ差異ヲ聞カン

古代歐洲ノ二大國希臘羅馬ノ歴史ト古代東洋諸國ノ歴史トヲ比較  
スレバ其形勢著シク反對スルヲ見ルベシ蓋シ東洋諸國ニ於テハ專  
政政治ノ横恣已ム時ヲク人民ノ自由精神ハ全ツ撲滅セラル、ガ爲  
ニ其文明一タビ或ル點ニ達シタル後チハ沈滞シテ復タ進マズ然ル  
ニ歐洲ニ於テハ之レニ反シテ人權ヲ貴重シ各人ヲシテ自由ニ其才  
力ヲ展ブルヲ得セシメルガ故ニ亞西里亞、埃及、非尼士亞等ノ技術、學  
問、文明ヲ輸入シ改良ヲ施シ進歩ヲ加ヘ遂ニ一種ノ新文明ヲ發出セ  
リ之ヲ要スルニ東洋ノ歴史ハ王室ノ歴史ニシテ希臘羅馬ノ歴史ハ







何等ノ爲メニ置キヤシク

何歳ニシテ教育ニ就キ何歳ニ至リテ止ムヤ

士巴太人ノ戰場ニ赴ク其母ハトキニ戒メテスルナカ

ニ共同扶持シテ歲月ヲ送ル其飲食スルヤ各々其田圃ノ穀菜ヲ醃シ相伴ヒテ同一ノ食卓ニ就ク其食料皆ヲ粗悪ナリ其教育ハ體操練兵ヲ以テ第一トシ傍ラ秘密計畧ヲ教ヘンガ爲ニ竊盜學ト云ヘル科ヲ設ケタリシトゾ此外夏冬共ニ同一ノ衣服ヲ着シ酷暑嚴寒ニ堪ヘルヲ飢渴ヲ忍ブ及ビ神色自若トシテ烈シキ支體ノ苦痛ニ耐ユルヲ皆其科程中ノモノナリト云フ但シ七歳ニシテ教育ニ就キ六十歳ニ至リテ止ムモノナリ又女兒モ男兒ト同一ノ教育ヲ受クルト雖モ其教場ハ異ナレリ是ノ如クナルヲ以テ勇猛壯烈ノ婦人續々輩出シ能ク男子ヲ鼓舞シタルト史上ニ嘖々タリ士巴太人ノ將ニ戰場ニ赴カントスルヤ其母戒シメテ曰ク汝楯ヲ携ヘテ凱旋セヨ然ラザレバ楯ニ載セラレテ歸リ來レトらいかるがすノ此制度ハ士巴太ヲシテ強盛尙武ノ國ト爲シめせにヤテ討平シ紀元前七百四十三年ヨリ同七百二十四年ニ至ル戰爭及六百八十五年ヨリ六百六十八年ニ至ル戰

諸州ノ盟主トナリテ諸州ノ連合ヲ成ラセシガ恰モ「ペルシヤ人」ノ入寇ヲ蒙リ諸州連合シテ之ガ防禦ニ當ラザルヲ得ザルヲ以テ竟ニ統一ノ志ヲ達スル能ハザリキ此時若シ入寇ノ事ナカリセバ之レニ顔顔シテ雌雄ヲ爭フモノ蓋シコレナカラシ

(八十)

希臘七賢ノ一人タル「ソロン」ガ雅典ノ憲法ヲ改良セシ概略ヲ叙セヨ

雅典正史ハ紀元前六百八十三年ヲ以テ始マル乃チ毎一年交代ノ執政ノ時代ナリ此時代ノ貴族政治ハ頗ル横恣ニシテ國內何トナク穩カナラズ怨聲野ニ滿チタリ紀元前六百二十四年どれこノ執政ノ職ニ就クヤ驚クベキ英斷ヲ以テ非常ニ峻嚴ナル新法ヲ定メ一舉シ

雅典ノ正史ハ「ソロン」ガ始メテ新法ヲ定メテ來ル



テ紛亂ヲ鎮定セントセリ然レドモ此新法ハ以テ人民ノ不滿ヲ鎮ムルニ足ラズ貴族ノ傲慢遂ニ民心ヲ破裂セシムルニ至リ一時無政府ノ境ニ陥ル

ソレコレノ法律ハ全廢セシテ

然ルニ紀元前五百九十四年兼テ民望ノ高キ希臘七賢ノ一人タルソロント云ヘルモノ出テ此厄ヲ救フそろん是ヨリ先キ撰バレテ執政官ノ一人タリシガ此ニ至リテ雅典ノ憲法改正ヲ委任セラルそろん先どれコレノ法律ヲ全廢シ次テ負債ノ契約ヲ破壊シ奴隸ヲシテ自由ヲ回復セシム又令ヲ下シテ以後人身ヲ抵當ニ置クヲ禁シ且父兄ヲシテ必ズ其子弟ニ技術ヲ習ハシメタリ次ニそろんハ憲法ノ改良ニ其力ヲ盡シタリ從來ノ寡人專制政治ヲ廢シ之レニ代フルニ中和政治ヲ以テス故ニ人民ニ參政ノ權利ヲ與フト雖モ又貴族ニ特權ヲ與ヘタリ

中和政治トハ何ゾ

之ヲ要スルニそろんハ雅典ノ貴族政體ヲ改良シテ民主政體ニ近ツ

雅典將來ノ自由幸福ヲ進メタル基礎ハ何ゾ

カシメタルモノナリ而シテ此改良ハ實ニ雅典將來ノ自由幸福ヲ進メタル基礎ニシテ且全歐羅巴洲ニ在リテ民主々義ヲ以テ建立シタル政體ノ模範トナレルモノナリ

(九十)

「ペルシヤ人」ガ希臘ニ入寇セシ始末ノ大要ヲ問フ

東洋ノ一大帝國ペルシヤハさいらす之ヲ創建シかんびせす之ヲ擴張シだらいあす之ヲ保守ス第十、三題ヲ參看スヘシ)だらいあすハ紀元前五百二十一年ヲ以テ王位ニ登リ是レヨリ先キ小亞細亞ナル希臘ノ殖民地即チ「あいを」にやん人ノ版圖モ大概ペルシヤノ有ニ屬シタリ然レドモ「あいを」にやん人「ハ」ペルシヤ人ノ支配ヲ受クコトヲ欲セズシテ屢々其羈絆ヲ脱セシテ圖レリ是ニ於テ雅典ハ其同族タルヲ以テ之ヲ救ハント欲シ援兵ヲ送リテペルシヤノ屬地ナル「リ」でいあ」ノ都府ヲ燒クだらいあす王怒ツテ大軍ヲ起シ直チニ叛亂ヲ鎮定シタル後チ希臘ニ對シテペルシヤ帝國ノ内事ニ干涉セシ罪ヲ

雅典人ハ何故ニ

ペルシヤ王ハ希臘



如對シテ  
鳴ラシテ  
カウラ

ひつびや  
何びや  
ニハ何故

や王テ起  
動シテ遠  
征シメシ

カサシメ  
シメテ起  
征シメシ

ザリセ何  
ル前大故  
ヤ進人軍

「まらぞ  
ん」ノ全  
勝ハ雅典  
ノ國威ニ  
如シテ及  
影響ヲ及  
ボセシヤ

「さらみ  
す」ニみ  
於テ大勝  
ヲ得ルニ  
ハ何レノ

鳴ラシ復讐ノ軍ヲ起シタリ是レ此「べるしや戦争」ノ起リタル原因ノ一ナリ其他ひつびやすト云ヘルモノガ己レ雅典ノ王ノ舊位ニ恢復セント欲シ頻リニだらいあす王ヲ煽動シテ遠征ノ軍ヲ起サシメタルモ亦一原因ナリ  
頃ハ紀元前四百九十三年「べるしや王」だらいあす其婿まゝどにあすヲシテ大軍ヲ帥ヒテ雅典ヲ撃タシム然レドモまゝどにあすませどんヨリ前進セズシテ軍ヲ其本國ニ返セリ其艦隊颶風ニ遇ヒテ沈没シ兵士ノ死セシモノ殆ント其數ヲ知ラザルヲ以テナリ之ヲ第一ノ「べるしや侵寇」トス  
其後だらいあす王ハ憤懣ノ餘リ更ラニていちすト云フモノヲ將トシ大軍ヲ出セシガ「まらぞん」ノ平野ニ於テ激戦數回ノ後「べるしや」ノ軍勢敗潰シテ悉ク船ニ乘リ逃レ去レリ之ヲ第二ノ「べるしや侵寇」トナス

此戦争ニ全勝ヲ得タリシカバ雅典ノ國威ハ頓ニ加ハリ殆ンド士巴太ヲ凌駕スルニ至レリ實ニ「べるしや」ノ入寇ハ希臘諸邦ノ連合ヲ成就セシメ而シテ「まらぞん」ノ一戦ハ雅典人ヲシテ將來連合ノ盟主タルノ兆ヲ現ハセリ  
だらいあす王死シテ其子ゼルキゼス位ヲ繼ク「ゼルキゼス」又父ノ意ヲ承ケテ希臘ヲ征奪セン「ト」ヲ誓ヒ陸軍一百餘萬ヲ募リ自ラ之ヲ率ヒ別ニ一千二百ノ戰艦ト數多ノ小船ヨリ成立タル一大水軍ヲ起シ共ニ希臘ニ進入シ「さあもびり」ニ勝利ヲ得テ遂ニ雅典府ニ入り數萬ノ人家ヲ一炬ノ下ニ灰燼トナシタリ然レドモ「さらみす」ノ灣ニ於テ希臘ノ軍遂ニ大勝ヲ得テ「べるしや」ノ水軍悉ク塵粉トナル又其遺軍ハふらみす、まいけ「る」ニ於テ敗績セリ之ヲ第三「べるしや」ノ侵寇トナス

此役ヤ實ニ全局ノ勝敗ヲ決シ「べるしや」ハ復タ敢テ本土ニ侵入セズ



歐羅巴ノ  
文明ヲ維  
持セシメ  
以テ何ゾ

(十二)

すべり最モ  
長シタル  
器量ハ何

何故ニ長  
シタル  
城ヲ築キ

三十年間  
休戦ノ間  
ニハリノ  
リナリノ  
業シヤル  
セシヤル  
演説ノ盛  
ハナリノ  
ヤナリノ  
時ニ在ル

但シ「ペルシヤ人」ノ「えじやん海」ノ北部ニ據レル間争闘アリシガ後「ペルシヤ人」遂ニ全ク歐羅巴洲外ニ追ハル是ニ於テ希臘ノ自由幸ニ維持スルコトヲ得タリ希臘ノ獨立ヲ維持スルハ即チ歐羅巴ノ文明ヲ維持スル所以ニシテ宜ク記憶セザルベカラザル事件ナリ

「ペリくりす」ガ「雅典」ヲ經營セシ有様ヲ記セ  
せみすどくりす及ビありすたいぢすノ二英雄世ヲ去リテ後チ雅典ノ全權ハ貴族黨ノ手ニ落チタリ此時ニ當リテ民黨ノ首領ニ「ペリくりす」ト云ヘルモノアリ沈勇ニシテ果斷アリ且最モ雄辨ニ富ム其兵才武略ハ貴族黨ノ首領かいもんニ及ハザルト雖モ平穩ノ都城ニ在リテ治平ノ畫策ヲ運ラスノ器量ニ至ツテハ今古ノ政治家ニ多ク其類ヲ觀ザル所ナリ「ペリくりす」一朝貴族黨ヨリ政治ノ大權ヲ取り返シ專ラせみすどくりすノ遺志ヲ紹キテ邦家ノ隆盛ヲ希圖シ新ニあしごすめがら等ノ諸列國ト同盟シ竊ニ士巴太ニ對抗セントセリ蓋

シ前年士巴太内亂ノ際援テ雅典人ニ求メ後チ雅典人ノ異圖アラシテ猜疑シ急ニ其援ヲ辭シ雅典國ヲ辱メタルヲ以テナリ此頃又「ペリくりす」ノ意見ニヨリ二道ノ長城ヲ築ク一道ハ雅典ヨリふはれらむ港ニ至リ一道ハ同府ヨリびりやす港ニ達シ共ニ四英里以上ノモノナリ是レ早晚士巴太ガ襲來スベシト預想シタレバナリ  
其後雅典愈々其威力ヲ逞フシタリシカバ遂ニ烈國ノ盟主トナリタリ「ペリくりす」ノ目的ハ「雅典」ヲ完全極美ナル共和政體トナシ「美術」學藝ノ本源トナシ且全國ノ首都トナシテ天下ノ改良ヲ圖ルニ在リ故ニ諸敵國ニ向ヒ三十年間休戦ノ約ヲ結ビシ太平ノ時ヲ機トシ只管力ヲ改良ニ盡シタリシカバ文學技藝上ニ爛熳タル美花ヲ開キ「戲曲」建築彫刻孰レモ傑作ノ名譽ヲ博セザルハナシ彼ノ今日自由國ノ利器タル演説ノ如キモ此時ヨリ盛ンニナリテ後世ノ人ヲシテ開化ハ希臘ノ雅典ニ始ル雅典ノ文明ハ「ペリくりす」其人ノ盡力ニ因ルモノ















氏ハ死ニ如ク  
何ナルテ死  
ナリ人カニ  
語リシカニ

(五廿)

此國ノ文  
學ヲ羅馬  
ニ比セハ  
如何

ハ市場或ハ路傍ニ立チテ演説シ人ニ聽問スルヲ得セシメ敢テ報酬  
ヲ要セズ總テ懇篤ヲ主トシ日常談話ノ如クナラント期セリ其世  
ニ處スル純潔高尚ニシテ人間ノ福祉ヲ進メント努力スル此ノ如シ  
然ルニ氏ノ教話ハ反テ數多ノ仇敵ヲ醸出シ竟ニ衆神ヲ敬セズ少年  
ノ徒ヲ惑ハスト誣ラレテ雅典府執政ニ訴ヘラレ乃チ其罪ニ坐シテ  
毒藥ヲ飲ムノ刑ニ處セラル其死ニ臨ミ門人等席ヲ擁シテ歔歔泣涕  
セシカバそくらてす從容トシテ之ニ語ルニ「靈魂不死ノ説ヲ以テシ  
タリト云フ

### 希臘ノ文學及哲學ノ一斑ヲ述ベヨ

聖經ヲ外ニスレバ古代ノ文學中最モ美妙ナルモノハ獨リ此國ノ文  
學ナリト云フベシ之ヲ羅馬ニ比セン平文章遙カニ富麗壯嚴ニシテ  
毫モ古人ノ辭句ヲ蹈襲セス蓋シ羅馬ノ如キハ希臘文章ヲ摸擬シタ  
ルノ跡蔽フベカラザル所アリ埃及巴比倫及ヒ非尼士亞ニハ斷簡遺

せんさあ  
べすた

ぐえだす

ほらまあ  
ガ者名ノ  
作ハ何ソ

哲學ハ何  
レノ地ニ  
興リシカ  
あいなに  
や學派ハ  
如何派ハ  
びさこり  
や學派ハ  
イカン

篇存スルモノアリト雖モ高妙ノ思想情感ヲ寫セルモノニアラズ古  
代ノ「べるしや人」モ「せん」と「あべすた」ノ如キ一大文章ヲ後世ニ傳ヘタ  
リト雖モ其結構粗笨ニシテ且ツ杜撰ナリ印度ノ「ぐえだす」ハ梵語ノ  
一大著作ニハ相違ナケレドモ未ダ文章ノ體ヲ成ザレバ之ヲ貴重ノ  
モノト云フヨリ寧ロ珍奇ナリト云フベシ然ルニ希臘ノ文學興ルニ  
及ンテ始メテ文章ノ體ヲ備ヘ結構思想殆ント妙處ニ至リ例ヘバ  
此國ノ古詩篇ト稱セラル、ほとまあノ「いりやつと」并ニをでつせい  
ノ如キハ其文章ノ婉曲ナル其結構ノ巧妙ナル古今空絶ナルモノナ  
リ

哲學ハ始メテ小亞細亞及ヒ下伊太利ノ兩希臘殖民地ニ於テ興ル紀  
元前六世紀づえりトす小亞細亞ニ始メテ「あいな」に「や學派」ノ基ヲ開  
ク殆ト同時ニびさこらす下伊太利ニ出テ「びさこり」や「學派」ノ泰斗タ  
リびさこらす及其他希臘ノ賢哲ハ專ラ物理學ヲ研究セシガ紀元前



希臘ノ研究  
哲ガ研究  
ハシモノ  
物理學  
論理學  
倫理學  
そくらて

ぶらこー

ありすこ  
いさる

演繹推理  
法ハ何人  
ガ主唱セ  
シヤ

第五世ニ至リテ談論學及脩辭學ノ徒續テ起リ論理脩辭ノ二術ヲ講究シ雅典ニ聘セラレテ少年ヲ教導セリ  
そくらてすハ古今隨一ノ大博士ニシテペリくりす時代後幾クモナク世ニ出テ哲學ヲ講明ス然レドモ敢テ自家ノ教系ヲ立テザルナリ  
(第廿四題參照セヨ)ぶらこーハそくらてすノ門人ニシテ紀元前四百三十九年ニ生レ同三百四十七年ニ死ス  
そくらてすノ學ヲ唱ヘ更ニ一機軸ノ哲學ヲ起ス所謂わかでみつク派是レナリぶらこーニ次テ雷名ヲ轟カシタルハありすこーとるナリありすこーとるハ歷山王ノ師ニシテ紀元前三百八十四年ニ生レ全三百二十二年ニ死ス此人ノ主唱セシ演繹推理法ハ二千年間人皆之ヲ宗トセリ倍根出テ、歸納法ヲ唱道スルニ至リ其說稍衰フト雖モ其大則ハ殆ンド磨滅スベカラザルモノアリ其他著名ナル人亦少ナカラズ

(六廿)

羅馬人ハ何人種ニ屬シタリシヤ羅馬府創立ノ頃ニ伊太利國中ニ在住セシ人種ハ幾何アリシヤ一々其名ヲ示セ

羅馬史中最モ重要ナルモノハ「伊太利人」ナリ「伊太利人」ハ殆ト中央伊太利全土ヲ占領ス原來純粹ノ「ありやん人種」ニシテ「希臘人」トハ親族ナリ而シテ「伊太利人」ハ「羅甸人」及「あんぶろさべりあん人」ノ二派ニ分ル而シテ後者ノ中又數種族アリ

伊太利族  
羅甸人  
あむぶろさ  
べりあん人  
あむぶろさ  
ざばいん人  
さむないさ人

羅馬史ノ初期ニ於テ最モ注意ヲ要スベキモノハ第一派ノ「羅甸人」ナリ何トナレバ始メテ羅馬大帝國ノ基礎ヲ立テシモノハ實ニ此人種ナレバナリ  
又此頃(即チ羅馬ノ起原紀元前第八世紀)伊太利ニハ(第一)こーる人(第

羅馬大帝  
國ノ基礎  
ヲ立テシ  
モノハ何  
人種ナリ



一)えとらすかん人(第三)あいわびしやん人(第四)伊太利人ノ四人種アリ其中(第一)ノごゝる人ハ半島ノ北部ニ住シ(第二)ノえとらすかん人ハあるの河及ビたいばノ河ノ中間ニアル地ヲ占メ(第三)ノあいわびしやん人ハあびゆりや及半島ノ西南端ナル趾部ニ據リ(第四)ノ伊太利人ハ殆ンド其中央部ヲ蔽ヒタリ而シテ又此四人種ノ外半島ノ西南部ニハ希臘人ノ殖民地數多アリタリ

「びゆー」につく役トハ如何ナル兵亂ゾ其原因ト結果ハ如何

亞弗利加ノ北岸ニ地中海ヲ隔テ、伊太利ノ半島ト相對シ四隣ヲ凌駕セントスル勢アル國ハカイセイビナリ已ニ第九題ノ答案ニ述ベシ如ク是レ非尼士亞ノ國人だいでうガ創立セシ殖民地ノ發達シテ遂ニ一大國ト成リシモノナリ紀元前第三世紀ノ頃羅馬ノ強盛ナララントスルニ際シカイセイビハ地中海ニ於テ專ラ商賣ニ從事シ其

トハ何故羅馬ノ殖民地ヲ創建セシメタル人

トハ何故羅馬ノ殖民地ヲ創建セシメタル人

開戦ノ口實イカン

勢亦日々盛ンニシテ殆ンド羅馬ト顔顔セリ思フニ此二國ノ如キハ固ヨリ其相衝突スルニ至ラザラント幾ンド得テ望ム可カラズ何ソトナレバ斯ノ如キ二強國ガ僅ニ一葦帶水ヲ隔テ、相對スル時ハ勢ヒ永ク兩立スルコト能ハザルモノナルニ况ンヤ又タ兩國ノ中間ニ位スルしゝり島ニハカイセイビ人許多ノ領地ヲ有シ又希臘人ノ諸府アリテ南伊太利ノ希臘人即チ羅馬ノ臣民トノ密接ノ關係アルニ於テチヤ

開戦ノ口實久シカラズシテ發生セリ是レヨリ先キ伊太利ノ海賊しゝり島ヲ襲ヒめつせな府ヲ奪フテ之ニ據リ頻リニ四隣ヲ掠メシカバカイセイビ人及ビしらきゆす人並ニ起テ之ヲ攻ム是ニ於テ海賊大ニ恐レ援ヲ羅馬ニ請フ羅馬人速ニ之ヲ諾シ兵ヲしゝり島ニ出シカイセイビ人ヲ破リしらきゆす王ひえろを降シ且カイセイビニ屬シタル要港ヲ拔ケリ是レヨリ夫ノ有名ナル「びゆー」につく







何故ニ財貨多ク入馬ニ注シカ  
 公共ノ土木公共ノ路運石橋水道溝渠  
 希臘ノ征服略ハ羅馬ニ結果ナ  
 希臘ノ征服略ハ羅馬ニ結果ナ

羅馬人が外國ヲ征服シテ其自ラ蒙レル結果ハ利害相雜ハルト雖モ恐クハ其害ノ或ハ其利ニ過グルモノアラシク其利害ヲ論ゼンカトセトシ希臘及東洋諸國ヲ征服シタルガ爲メ財貨多ク羅馬ニ注入シ群領ノ税額亦大ニ國庫ノ歳入額ヲ増加シ乃チ大ニ公共ノ土木ヲ起スヲ得タリ或ハ全國ヲ通シテ盛大ナル運路ヲ修築シ或ハ國道ヲ諸州ノ縱横ニ開キ或ハ美麗ナル石橋ヲたいば一河ノ處々ニ架ス又羅馬府ニ宏壯ナル公館ヲ營ミ溝渠ヲ開鑿シテ汚水ヲ疏シ二條ノ水道ヲ構造シテ飲水ヲ通ズ特ニ夫ノ執政官バトシビをなしかガ公共ノ漏刻ヲ建設セシハ紀元前百五十九年ノトニシテ國初ヨリ此時ニ至ルマテ六百年間羅馬ニ未ダ嘗テ晝夜ノ時ヲ計ルベキ具アラザリシナリ

然リ而シテ希臘ノ征服ハ羅馬ノ上ニ大ナル結果ヲ與ヘタリ希臘ノ哲學者、文學家、詩人、樂工等ハ此時ヨリ羅馬ニ移住スルモノ夥シ羅馬

與ヘシヤ  
 羅甸文學ノ起リハ

詩歌壇上人ノ傳奇作者ノ先達者

風俗イカ

人之ニ刺撃セラレ漸ク心ヲ文學ニ傾ケ學ニ志スモノ多シ紀元前第二世紀ニ當テ羅甸文學起ル蓋シ羅馬文學ノ隆盛ハ此後百年ヲ經テをイガサナす帝ノ時代ニ在リト雖モ當時已ニ卓絶ノ著述家輩出セリ就中詩歌壇上人ニハえんにやす及ふるヲサす傳奇作者ニハをれんす散文ノ先達者ニハかど一等アリ皆一世ノ鴻學ナリ此ノ如ク羅馬國內ハ祥雲驟隸トシテ百事悉ク具ハリ泰平幸福ノ象ヲ呈セシト雖モ仔細ニ其内部ヲ視察スレバ其間ニ種々ノ弊害ノ隱伏スルモノアリ夫レ羅馬ハ希臘ノ文明ニ接シテ其利スル所尠カラズト雖モ爲メニ鄙陋ノ習俗ヲ學ビ懦弱風ヲ成シ驕奢日ニ長シ婚姻ヲ重セズ昔時ノ信義地ヲ拂ヒ世道大ニ壞敗ス聞クト筮者妄誕無稽ノ事ヲ説キ人ヲ惑ハステ以テ常トナスガ故ニ途ニ相遭フ時ハ互ニ笑ヲ催サマルヲ得ザルニ至レリト



政治イカ

奴隸貿易  
カノ有様イ

何故ニ血  
統敗壞セ

家屋別  
莊園別  
魚池別  
衣服別  
飲別

四十四

是ニ至テ羅馬ノ政治漸ク腐敗シ實ニ懼ルベキ狀ヲ誘起スルニ至ル  
 蓋シ羅馬ノ政法タル有司ヲ撰擧スルノ權總テ府民ノ手裡ニ在リシ  
 ガ故ニ「ぶろびんす」ノ奉行ノ如キ極メテ利益アル官職ハ撰擧ヲ得  
 カ爲メ賄賂ヲ贈リテ公然請託スルニ至レリ  
 豪商及豪農ノ奴隸ヲ使役スルヨリ奴隸貿易大ニ行ハレ各國各地皆  
 奴隸ヲ出スノ義務アリ特ニ叙利亞及小亞細亞ノ内地ハ之ヲ捕獲ス  
 ル最モ多シ當時伊太利半島ノ通常人民ハ其數五百萬人ニ過キザ  
 リシニ奴隸ハ一千二百萬人ノ多キニ達セリ  
 奴隸ノ外亞細亞亞弗利加及ヒ其他ノ征服地ヨリ羈留雜居スル人民  
 實ニ夥シク此レガ爲メニ血液混淆シテ羅馬人種ヲ害セリ  
 又羅馬人ハ一朝外國ヲ征服シテ一時ニ巨額ノ富ヲ得タリシヨリ奢  
 侈ノ風頓ニ起リ家屋別莊園圍魚池衣服飲食ノ如キ皆華奢靡麗ヲ極  
 メザルハナク或ハ一人ノ割烹夫ヲ得ルニ十萬セストル(五千弗)ノ大

食宴

何人ゾ  
墮落人種

(九廿)

金ヲ抛チ或ハ異境ノ珍味ヲ求ムルニ數百千金ヲ費ヤシ饗宴ニハ音  
 樂ヲ奏スル伶人舞蹈ヲ爲ス美人ヲ招シテ興ヲ助ケシメ又壁間ニハ  
 紫色ノ帛ヲ懸ケ錦燦爛タリ地板ニハ燃ルガ如キ花氈ヲ敷キ銀盤玉  
 杯ヲ列チテ互ニ豪奢ヲ鬪ハセリ此有様至ル處日々夜々絶ユルヲ無  
 シ  
 此ノ如キ風俗頹敗中ニ介立シテ羅馬古代ノ風ヲ守リ其徳行人ノ師  
 範タルベキ高尙ノ人物ナキニアラズカトトノ如キハ其一人ニシテ  
 頻リニ國人ノ奢侈ニ赴クヲ歎キ羅馬人ヲ目シテ墮落人種トナシ死  
 ニ至ルマデ風俗ノ敗壞ヲ矯正セントカメシカド遂ニ其目的ヲ達ス  
 ルニ及バス憾ヲ吞ンデ地ニ入レリトゾ  
 紀元前第二世紀ニ至リテハ此惡風愈々益々増長シ其ヨリ百年ヲ經  
 テ之ガ爲ニ羅馬共和政治終ニ顛覆セララル、ニ至レリ  
 羅馬第一次ノ三頭政治ハ如何ナル人々ノ組織セシモ

上古史

四十五







暗殺ノ結果  
果イカン

暗殺黨

ぶるたす

あんにん

おきたび  
やす

れびたす

しりぞく暗殺ノ結果ハ大ニ暗殺黨ノ希望ニ反シ一人トシテぶるたす、かしやす等ヲ援ケルモノナシ加フルニまゝく、あんどにハ葬禮ノ日ニ於テ其尸ニ臨ミ悲壯ナル演説ヲ爲シ羅馬人ヲシテ暗殺黨ノ所爲ヲ怒ラシムルヲ甚シクぶるたす等安然羅馬ニ留マルヲ能ハズ遂ニ出テ、國外ニ奔レリ爾後あんどにハしりぞく黨ノ首領トナリ恰モしりぞく主義ヲ代表スルノ狀アレド之レヨリモ更ニ直接ナル繼續者タルノ權利ヲ有スルモノハけいやす、をくたびやすニシテ時ニ齡甫メテ十九歳ナリをくたびやす、ませどんヨリ歸リ議官等ノ援助ヲ得テあんどにハテ國外ニ放逐セリ其後益々人望ヲ得テ紀元前三十年遂ニ執政ノ官ニ上レリ爾後幾モナクをくたびやす、あんどにハ相和シタリシカバ騎兵總督レびたすノ三人新ニ聯合ヲ成シ主權ヲ三分シテ各其一ヲ保ツノ策ヲ建テ先ツ仇敵ヲ挫折シ併セテ共和黨ノ軍兵ヲ破碎スルヲ以テ主要トセリ

此時代ノ版圖ノ廣  
サイカン

何故ニ帝王ノ名ヲ  
シヤ

をくたびやす帝王ノ位ニ即カザルニ世人ハ何故ニ此人ノ治世ヲ帝政時代ト云フヤ并ニ其本質ヲ記セ

あくたびやすノ關キシ羅馬帝國ノ版圖ハ東ハ「ゆーふらちす河」ニ至リ北ハ「來因」及「ビ」にゆーぶノ二河ニ迫リ西ハ大西洋ニ濱シ南ハ亞弗利加「さはら」ノ沙漠ニ接シあくたびやすノ名聲ト威權ハ世界ニ轟ケリ紀元前二十七年ニ至リあくたびやすハ「あーがすたす」ノ稱號ヲ得タリ是レヨリ以後ヲ帝政時代トナス「あーがすたす」ハしりぞくヲ以テ殷鑑トナシ帝王ノ名ヲ僭シテ人民ノ憎怨ヲ招クガ如キコトヲ爲サズ諸事簡易ヲ主トセリ十年ノ期限至ル毎ニ決然大將軍ノ位ヲ辭シ人民之ヲ聽カザルニ及ンテ再ビ其任ニ當リ以テ其謙遜ヲ示シ又常ニ自ラ稱シテ「議官」ノ命令ヲ奉ズル一有司ニ過ギズト爲ス然レドモ實際ニ於テハ非常ノ大權ヲ掌握セリ又歲月ヲ經ルニ隨ヒ種々ノ重職ヲ一身ニ集メ漸次人民ヲシテ一人ノ命令ヲ受クルニ慣レシ



(三冊)

メタリ故ニ「お」がすたすハ名ハ帝王ニアラズト雖モ其實ニ至リテ  
ハ毫モ帝王ニ異ナラザルナリ

「お」がすたす帝ノ時宗教ノ有様如何

猶太教ノ外ハ悉ク偶像多神ノ二教ナリ然ルニ此際一事件ノ羅馬領  
地ノ一隅ニ於テ起ルアリ蓋シ羅馬人申聰明ヲ以テ稱セラル、者ダ  
ニ此一事件ガ數十年ノ後ニ至リ至大至重ナル關係ヲ世界ニ有スル  
ニ至ラントハ決シテ想像スル能ハザリシナリ之ヲ耶蘇基督ノ降誕  
トナス基督遂ニ一派ノ新宗教ヲ開キ古來ノ迷霧ヲ攪破シテ此世界  
ノ思想風俗ヲ一新セリ而シテ羅馬帝國ノ統一ハ基督教ノ弘布ニ大  
ナル功アリ或人言フ羅馬帝國ガ其版圖内ニ數多ノ異教徒ヲ集合シ  
タルニ事ハ基督教ヲシテ力ヲ用ユルト少ナク一擊シテ之ヲ破碎セ  
シタルニ備フルモノナリト實ニ至言ト謂フベシ

(四冊)

羅馬諸州ノ範圍内ニ存セシ三種類ノ文明トハ何ゾ及  
ビ其行ハレシ各區域ヲ擧ゲヨ

羅馬帝國ノ範圍内ニ羅馬、希臘、東洋、三種ノ文明ヲ存セリ羅馬文明ノ  
行ハル、區域ハ大西洋、あどりあ海、間ノ諸國ニシテ希臘文明ノ行ハ  
ル、地ハ「あどりあ海」ヨリ「ど」トラス山ニ至リ東洋文明ノ行ハル、地  
ハ其レヨリ以東「ゆ」ト「ふ」ラテ「す河」ニ至ル

「おんすたんちん帝」ガ首都ヲ羅馬ヨリ「ばいざんちやむ」ニ遷セシ  
ニ遷セシ原因如何

「おんすたんちん帝」ノ首都ヲ羅馬ヨリ東方「ばいざんちやむ」ニ遷セシ  
「ハ」伊太利已ニ羅馬帝國ノ中心トシテ昔時ノ如ク貴重ナル「ハ」能ハ  
ズ大ニ其價值ヲ減サタルニ由ルナリ悉ク言ハバ此頃百事皆衰滅ノ  
兆ヲ顯ハシ嘗テ世界ヲ統一セシ所ノ羅馬人種ハ今日驕テ己レガ征  
服シタリシ郡領ノ爲メニ制セラレ、ニ至リタレバ全ク羅馬ヲ棄テ

式微ノ光  
ヲ記シ得  
ルヤ

(五冊)







羅馬滅亡ノ時

中古史ノ事跡ヲ記セルヤ

自由ヲ愛重スルノ情ト精神トノ如何ヲ得タルヨリ

羅馬種ノ言語トハ如何ナル言語ゾ

(八冊)

せるつ古語

せるつあひん土語

五十四

「ちゆいどん人」が史壇ニ影響ヲ及ボセルハ羅馬滅亡ノ時ニ始マルモノニシテ其始メテ崛起シ始メテ事業ヲ立テタルハ此時ニ在リ蓋シ中古ノ歴史ハ「ちゆいどん」即チ日耳曼ノ蠻族ト羅匈及ビ「せるつ」ノ兩原素相胞合スル其事蹟ノ史ニ過ギズ而シテ近代ノ社會ハ即チ此兩原素結合ノ結果ニシテ其自由ヲ愛重スルノ情及ビ獨立ノ精神ハ之ヲ蠻民ヨリ得、文明ノ定形ハ之ヲ羅馬人ニ得タルモノナリ

### 羅馬種ノ言語トハ如何ナル言語ゾ

初メ「ちゆいどん人」ノ伊太利及ビ羅馬帝國ノ西部諸州ニ侵入セシ時ニ當リテハ獨リ伊太利ノミナラズ「せるつ」及ビ西班牙ニ於テモ羅匈語ヲ以テ普通ノ用語ト爲シタレバ昔時羅馬人ノ征服以前ニ用ヒタル「せるつ」及ビ「あいべりやん」土語ノ如キハ僅ニ偏僻ノ地ニ行ハルモノミナリキ勿論此時行ハレシ羅匈語ハ純粹ナルモノニアラズト雖モ猶羅匈語タルノ實ヲ失ハズ「ちゆい

一種ノ羅匈語ノ成行イカニ

(九冊)

### 東羅馬帝じやすちにやんハ治世ノ間ニ如何ナル事業ヲ成シタルヤ其重大ナルモノヲ擧ケヨ

西羅馬帝國全ク頽敗シテ竟ニ蠻民ノ手裡ニ落チタレドモ東帝國ハ其禍ヲ免カレ後チ一千年間東帝國希臘帝國若クハ「ばいざんちやむ

中古史

五十五



ばいざんちやむ  
國ノ隆盛  
帝ノ治世  
ナルヤ  
せんざ  
そひやの  
大寺

羅馬法典

帝國ノ名ヲ以テ纔ニ保續スルヲ得タリ此間歐洲全土ハ新國體漸ク  
興起シ新文明漸ク芽ヲ放ツニ隨ヒ東帝國ノ運命ハ日ニ月ニ敗頽セ

五十六

「ばいざんちやむ帝國」ハ紀元五百二十七年ヨリ五百六十五年ニ至ル  
じやすちにやん帝ノ永キ治世ノ間ヲ以テ最モ隆盛ノ時トナスじや  
すちにやん帝ハ土木建築ヲ以テ其名著ハル特ニ「こんすたんちの」  
ふる府ノ「せんざそひや」ノ大寺ヲ築造シタルヲ以テ其名最モ高シ然  
レドモ帝ノ名ノ尙更ラニ稱道スベキハ夫ノ羅馬法律ヲ編纂ノ完全  
ナル成典ト爲シタル大事業ニ在リ蓋シ是レヨリ以前ハ法衙ノ判決  
ト政府ノ布告ト往々相抵觸シ且其數夥多ナルヲ以テ人々適從スル  
所ヲ知ラザルノ患アリじやすちにやん帝大ニ之ヲ慨キどりぼにや  
んト稱スル法律大博士及ヒ其他ノ學士ニ委任メしぶいるる「ト稱  
スル完全ノ羅馬法典ヲ編成セシム所謂「トド」いんすていちゆ「ト

及「ばんでくつ」是レナリ歐羅巴諸國英吉利ヲ除クハ多ク之ヲ以テ國  
法ノ大本トナセリ

### 佛蘭西國ノ起原ヲ問フ

西羅馬帝國漸ク瓦解シ天下騷擾ノ時ニ當リこゝる地方ニ於テ「ちゆ  
」トシテ種族ノ國ヲ建テシモノニアリ曰ク「うびしごつす人」曰ク「ばる  
が」んぢやん人曰ク「ふらんく人」是レナリ此三種族ノ中「ふらんく人」獨  
リ強盛ニシテくろびすト云フモノ其王位ニ在リシ時々其領地來因  
河「ヨリ」びれに「す山」ニ至マテテ包有セリ紀元五百七年くろびす都  
ヲ「巴里」即チ「る」てしあニ定メ佛蘭西ノ基礎ヲ成セリ初メ「ふらんく  
人」ノこゝるニ來リシ時ハ多神教ヲ奉セシガ幾クモナク基督信者ト  
ナレリ

「ふらんく」人其勢力甚々強ク且「こんすたんちの」ふる府ヲ距ル「甚  
ダ」遠キヲ以テ東羅馬帝之ヲ統治スル「能」ハズ故ニ之ヲ友族ト見做

中古史

五十七

くろびす  
うくろび  
シテ即チ  
るナリ  
後世ナリ  
出ツ  
巴里

(十四)



くろびすハ初メ基督教ヲ採用シテ民心ノ一致ヲ固フセシガ又夫ノ有名ナル「さりつく」法ヲ設ケテ政府ノ権力ヲ鞏固ニセリ所謂「さりつく」法ハ女王ヲ立テザル等ノ制ニシテ此一ク條ハ封建ノ時代ニ於テ大ナル勢力ヲ有シ近世ニ至ルマデモ尙ホ存在セリ

佛蘭西ノ眞起原

扱テ上ニ述ベタルハ今日ノ所謂ノ佛蘭西ノ起原ニハアラザルナリ今日ノ所謂ノ佛蘭西ノ眞起原ハ實ニ第十世紀ノ後ニ興ル蓋シ「ゴ」ルノ「ふらんく人」ニ討滅サル、ヤ「ゴ」ルノ地「ゴ」ル「ふらんく」王國ノ一州郡トナリ「ちや」れまん帝ノ時ニ於テハ亦其大帝國ノ一小部分タリ「ゴ」るたんノ和約ヲ以テ「ちや」れまんノ帝國ヲ分領スルノ約成リ爾後「か」ろ「う」いんし「やん」統世々佛蘭西ニ王タリシト雖大抵ハ情弱ニシテ國內ヲ統御スルノ力ナク「ふらんし」や「ば」がんでい「のるまん」でい「等」ノ諸侯各々獨立シテ毫モ王命ニ從ハズ

ひゆーか

英吉利國ノ起原ヲ問フ

るいすらつが「ど」王ニ至リテ「か」ろ「う」いんし「やん」統斷絶ス「ふらん」し「や」公「ひゆーか」ベ「國內」ノ騷亂ニ乗リ自立シテ佛王ト稱セリ實ニ紀元九百八十七年ノ「ゴ」ニシテ今日ノ所謂ノ佛蘭西ノ眞起原是ナリ

英島ノ原人ハ何ゾ

下日耳曼ノ侵入者ハ何ゾ

英國ハ西羅馬帝國ノ猶盛大ナル時其一小僻隅ニ在リテ嘗テ世ニ著ハレズト雖「ヒ」次第ニ進歩シテ將來ノ一大國ノ基礎ヲ成セリ今其事情如何ヲ畧記スベシ初メ羅馬ノ兵「ぶ」り「どん」州ニ駐在セシカ帝國滅亡ノ以前五十年頃悉ク召還サル是ニ於テ「ぶ」り「どん」人「自」カラ獨立セザルヲ得ザルニ至ル「ぶ」り「どん」人「は」せる「つ」人種ニシテ英島ノ原人ナリ第五世紀ノ中頃ニ當リ下日耳曼ノ「ちゆーどん」諸族「え」る「べ」「う」え「い」せる「ノ」兩河畔ヲ去リ大舉シテ英島ヲ侵襲シ「ぶ」り「どん」人「ヲ」う「え」る「す」地方ニ放逐シ自ラ代テ英島ヲ領セリ是レ今日ノ英人ノ祖先ナリ此等ノ下日耳曼ノ侵入者中重ナルモノヲ「あんぐろ」人「さくそん」人「及」











「さらせん人」びれに「す山」ヲ踰へ南方を「る」ニ據ル其後名將あぶと  
 えるら「まんまほめつと教」ノ兵ヲ率ヒテ北征シ「ふらんく人」ノ地ヲ  
 零セント欲シ北行シテ「ろいあ」ニ至ル其鋒ノ向フ所風靡セザルハナ  
 シ將ニ歐羅巴全土ヲ席卷セントスルノ勢アリ  
 此危急ノ時ニ當リ「ふらんす」ノ「ちや」れす「まゝ」てゐる舊テ基督教國ヲ  
 保護セントシ大ニ兵ヲ集メテ進軍シ「さらせん人」ト「どうる」及「ぼ」ど  
 い「ノ」間ニ會シ劇戰七日其第七日ニ至リ「さらせん人」大敗シ殺傷算  
 フル無シ時ニ紀元七百三十二年ナリ此勝戰ニ由テ「さらせん人」ノ腕  
 臂ヲ挫キ終ニ復ヒ歐羅巴ニ振フヲ得ザラシメタリ是レ「ちや」れ  
 すガ世ニ「まゝ」てゐる「樅ノ義」ノ綽名ヲ得シ由縁ナリ  
 しや「れまん」帝一代ノ戰爭遠征ハ如何ナル大望ヲ達  
 センガ爲メ企テシモノナルヤ  
 しや「れまん」實圖スル所ハ「主」トシテ羅馬帝國ヲ再興スルニ在リ蓋

シ羅馬帝國ノ顛倒シタルハ其基礎羅甸ノ如キ最爾タル一小地ニ在  
 リシニ因ルガ故今ハ更ニ之ヲ日耳曼地方ニ建テ、其根抵ヲ牢ブセ  
 ノトセリ而シテ此謀畧ヲ實行スルニハ當時ノ文明ノ諸原素ハ皆之  
 ナ其材料ニ供セント欲ス就中「ちゆ」ど「ん」人ノ政治思想ト基督教會  
 ノ結合カノ二大原素ヲ利用セリ故ニ「しや」れまんノ一代ヲ達觀ス  
 レバ一方ニハ國民ノ深ク尊敬セル日耳曼ノ舊制度ハ皆注意シテ之  
 ヲ保存シ一方ニハ羅馬法王ヲ輔クテ且ツ熱心ニ基督教會ヲ保護セ  
 ルノ跡其事業中ニ歴然タリ「しや」れまん佛蘭西國ニ君臨スル四十  
 六年其間戰爭遠征ヲ企ツテ大小五十三回征服セル國民ノ數十有二  
 ニ下ラズ皆其大望ヲ貫カンガ爲メニ成シタルニ外ナラザルナリ

封建制度ノ起原ヲ詳記セヨ

中古ノ社會ニ於テ最モ顯著ナル一種奇異ノ狀態ハ封建制度ナリト  
 ス此制度ハ嘗テ西羅馬帝國ノ版圖ニ屬セシ諸州ヲ畧取セル「ちゆ」



奇異ノ封  
制度ナリ

世襲産ハ  
如何

守産法ハ  
如何

君主ハ如  
何  
臣屬ハ如  
何

僧侶〇和  
倫

臣屬ガ君  
主ニ爲ス  
所ノ誓約  
ハ如何

とん諸族中ニ行ハレシ所ノ特別ナル結社ノ關係ニ遷艦シ第十一世ニ至リ嘗テ「日耳曼人」ノ征服セル各地ニ行ハレ爾後中古ヲ經テ近世ノ初ニ至リ大變革ノ相續テ起ルニ及ンテ始メテ廢滅セリ

初メ日耳曼ノ自由獨行ノ蠻民等ガ其酋長ヲ助ケ戰爭ニ從事シタル者ハ其功勞ニ酬ユル爲メニ各人ニ應分ノ采邑ヲ與ヘ之ヲ世襲産ト名ケ全ク自己ノ私有物トナサシメタリ而シテ酋長又ハ君主ト稱スルモノモ甚ダ廣大ナル土地ヲ分領シ以テコレガ私有トセリ然ルニ其後君主己レノ領地ヲ其隸屬寵臣ニ割與シ以テ忠誠ヲ盡シ且ツ兵役ニ從フコトヲ誓ハシム而シテ此割與セル土地ヲ食邑ト稱シ此法ニ從ヒ土地ヲ所有スルヲ守産法ト云ヘリ此守産即チ食邑ナル者ハ大ニ世襲産ト異ナル所アリ世襲産ハ眞ニ各自ノ所有物ナレドモ守産法ニテ領スル土地ハ其人ノ私有スル權利アルニアラズ唯ダ眞ノ所有主ノ允許アル間之ヲ持續スルヲ得ルニ過ギズ兵士若シ忠節

ヲ盡サザルトキハ則チ之ヲ持續スルノ權モ亦停止セララ、ノ例ナリキ其眞ノ所有主ヲ君主ト云ヒ所有主ノ土地ヲ領スル者ヲ其臣屬ト云ヘリ

凡ソ君主ガ食邑ヲ寵臣ニ割與スル如ク世襲産ヲ所有スルモノモ亦其幾分ヲ割キテ之ヲ守産法ニ從ヒ我ヨリ劣等ノ地位ニ立ツ者ニ與ヘテ己レノ家來トナス僧侶及和尚モ亦國王ヨリ受ケタル領地ヲ武士ニ與ヘ平時ハ寺院ヲ守護セシメ事アレバ國王ノ徵募ニ應シテ兵役ニ從フ義務ヲ擔ハシメタリ

又臣屬タルモノ、其食邑ヲ領スルガ爲ニ君主ニ成ス所ノ誓約ハ軍役ニ從フ事ト臣タルノ禮ヲ盡ス事トノ二事ヲ以テ要點トナス之ヲ詳言スレバ總テ國王ヨリ食邑ヲ受クル者ハ典禮儀式ノ時ニ際シテハ參朝シテ務ニ服シ並ニ戰爭ノ時ニ當リテハ若干ノ兵ヲ率ヒテ國王ヲ輔クルノ義務アリ又僅少ノ食邑ヲ有シテ大地主ニ隸屬スルモ



ノモ其地主ノ召喚ニ應シテ登城出軍スルノ義務アリ而シテ地主ハ其臣屬ヲ保護スルヲ以テ任下セリ  
 封建制度ハ忽チニシテ上國王ヨリ下陪臣ニ至ルマテ相聯繫シテ行ハル、ニ至レリ蓋シ大貴族ハ國王ノ贈與ヲ受ケ甘マテ之レガ臣屬トナリ又小地主モ往々其私有地ヲ近隣ノ大地主ニ獻シテ更ニ之ヲ食邑トシテ受領シ以テ此地主ニ其保護ヲ請托セリ是ヲ以テ未ダ數年ヲラズシテ全國ノ邦土殆ソド食邑ナラザルハナク社會ハ上ハ國王ヨリ下ハ庶民ニ至ルマテ層々相聯繫シテ階級ニ從ヘリ故ニ國王ト雖モ若シ其領地ヲ他國ニ有スレバ則チ其國ノ王ノ臣屬タリ猶英國ノウゐりやむガのるまんど一侯即チ領主ノ資格ヲ以テハ佛蘭西國王ノ臣屬タリシガ如シ

### 封建制度ヲ漸次顛覆セシ所ノ勢力ハ何々ナルヤ

封建制度ヲ漸次顛覆セシ所ノ勢力三アリ(第一)王權(第二)市府ノ權第

### 三(僧侶ノ權是レナリ)

王權ハ封建制度ト直接ノ牴觸ヲ爲シタルモノナリ何トナレバ王權增加シテ中央集權ノ益々強盛ナルニ隨ヒ侯伯ノ權力ハ微弱ニ赴クバナリ初メ「ちゆ」ト「どん」族ノ佛蘭西、日耳曼、伊太利、西班牙及ヒ英吉利等ニ入りテ王國ヲ設立スルヤ國王ノ侯伯ニ對スルコト猶ホ侯伯ノ其臣屬ニ對スルガ如クニ國王ハ直チニ人民ニ接スルヲナカリシガ年ヲ經ルニ隨ヒ國王漸ク權力ヲ其一身ニ集メ遂ニ封建制度ト牴觸スルニ至レリ其然ル所以ハ他ナシ王ハ全國ノ君主ナルヲ以テ先ツ其心裡ニ「國家」テフ思想ヲ起シ我ハ此全國ノ頭領ナレバ之ヲ統一シテ支配セザルベカラズト云フ觀念ヲ以テ遂ニ諸侯ヲ措テ直チニ人民ニ接シ或ハ其權利ヲ保護シ又ハ法令ヲ全國ニ布キ人民ヲシテ之ヲ奉セシメ竟ニ王權ヲ以テ法律ヲ發スルノ源泉トナスニ至リシナリ而シテ其法律ハ封建諸侯ノ私意トハ徑庭スル所アリ全國ヲ目



トナス

市府ノ權  
ハ如何

都邑

城市

立憲代議  
政體

的トシテ發布スルガ故ニ自カラ公平ニシテ平民ノ歡心ヲ買ヒ隨テ  
 王權ノ左袒者ヲ増加スルニ至レリ  
 次ニ封建制度ノ顛覆ニカアルモノハ市府ノ勃興ナリトス古昔羅馬  
 帝國ノ頃ニハ到ル處自由自治ノ市府アリ此等ハ多クちゆゝとん族  
 ノ侵掠ヲ免レ封建社會ノ中間ニ介立シテ能ク小共和即チ自治ノ社  
 會ヲ維持シタリシガ封建制度モ亦自ラ同儕ノ社會ヲ造出スルニ至  
 レリ蓋シ當時人民亂ヲ避ケ封建王侯ノ城下ニ輻輳シ王侯モ亦其力  
 ニ由テ以テ自ラ強クセンヲ圖リ住民ニ若干ノ特權ヲ與フルノ利  
 益ヲ悟リタリ是ニ於テ乎所謂都邑タウンナルモノ起リ王侯ノ任命セル市  
 君之ヲ管治ス斯クテ又更ニ一層自由ナル城市シティ漸ク興リ確乎タル自  
 由特許狀ヲ有シテ其人民自ラ市君ヲ選舉スルヲ得タリ此都邑及  
 城市ハ封建壓制ノ沙漠中ニ在ル自由ノ沃地ト云フモノニテ夫ノ竟  
 ニ封建制度ヲ倒シ又王者ノ專擅ヲ箝制シテ立憲代議政體ヲ成シタ

僧侶ノ權  
ハ如何

仁慈說  
四海兄弟  
論

十字軍  
火藥ノ發  
明法ノ變  
革貿易ノ擴  
張一般知識  
ノ進歩  
封建制度  
ノ善惡  
イカン

ル歐羅巴社會ノ大勢力即自由平民ノ中等政會ハ實ニ此者ヨリ起レ  
 ルナリ

基督教會ハ大ニ其教旨ヲ擴張セント努ムルヲ以テ自然中央集權ト  
 協力セントスルガ故ニ僧侶ハ常ニ國王ニ與シテ諸侯ニ抗敵セリ且  
 其管領スル所ノ土地ハ殆ンド歐羅巴全國ノ半ニ過キタリ而シテ基  
 督教ノ仁慈說及四海兄弟論ノ如キハ皆封建侯伯ノ邪惡專恣ヲ制抑  
 スベキ一大利器ト爲ルニ至レリ

其他封建制度ノ覆滅ニ功アリタル勢力中ノ重大ナルモノハ十字軍  
 火藥ノ發明及ヒ之レニ次ゲル戰法ノ變革貿易ノ擴張及ヒ一般知識  
 ノ進歩是レナリ

思フニ封建ハ全ク惡制度ナリト斷言スベカラズ其當時ニ行ハレタ  
 ルヲ見レバ多少時勢ニ適合シタル所アリシナラシ然レドモ此制ヤ  
 全ク野蠻社會ノ事體ニ屬スルモノナルガ故ニ文明ノ其體內ニ生長



スルヲ抑制スル能ハズシテ竟ニ其文明ノ爲ニ撲滅セラレ、ニ至リ  
シナリ

### 十字軍トハ如何ナル軍役ゾ其原因ト結果如何

(七十四)

第十二世紀及第十三世紀ニ至ル二百年間ハ歐羅巴史上ノ緊要ナル  
事件ハ大概夫ノ有名ナル十字軍ト稱スル非常ノ遠征ニ關係セザル  
モノナシ此十字軍ト云フ語ハ元來佛蘭西語ノ「クロアズ」ヨリ出  
テシモノニシテ「十字架」ノ戰爭ト云フ義ナリ而シテ此數度ノ十字軍  
ナルモノハ西部歐羅巴ノ諸國民ガ基督教ノ靈地ゼるざれむヲ「さら  
せん人」及「土耳其人」ヨリ恢復セント欲シテ起セシモノナリ  
基督教ノ盛ニナリシ初年ヨリ世ノ善男善女タルモノ讚美ノ歌ヲ  
唱ヘテ四方ヨリばれすたいんノ聖墓ニ詣ルコトハ殆ント常例ノ如  
クナレリ所謂「びるぐりむ」ナル者はナリ「さらせん人」ガばれすたいん  
ノ地ヲ領セル頃ハ參拜者至レハ商業上其利スル所少カラザルヲ以

十字軍ト云フ語ハ何ヲ意味スルカ  
十字架ノ戰爭此軍ノ目的ハ如何

巡禮

テ毎ニ之ヲ獎勵保護セシガ後第十一世紀ノ中葉「土耳其人」ガ小亞細  
亞及叙利亞ヲ征服スルニ及ンテ基督教徒ハ其住民タルト參拜者ヲ  
ルトヲ問ハズ最モ殘忍ナル待遇ヲ蒙リタリ而シテ「まほめつ」と教徒  
即チ所謂異端ノ徒ノ爲メ或ハ嘲侮サレ或ハ辱メラレ參拜人ノ遁レ  
テ歐洲ニ歸ルモノ殆ンド虚日ナキニ至レリ

「土耳其人」ガ斯ノ如クばれすたいんナル基督教徒ヲ無殘ニ虐待シ賤  
辱スルノ報知ノ西部歐羅巴ニ聞ユルヤ各國ノ信神ナル人民等ハ奮  
然トシテ憤リ勃然トシテ怒リ「まほめつ」と「邪教」ヲ撲滅シテ救世主  
ノ靈地ヲ恢復シ以テ其汚穢ヲ清ムベシト切望セザルモノ無キニ至  
レリ

時ニび「た」へるみつどト稱スル一僧アリ銳意熱心シテ四方ニ遊  
説シ以テ遂ニ此願望ヲ實行セシムルニ至レリ「た」ハ佛國「アミ  
エン」ノ産ニシテ少壯ノ時軍旅ニ從事シ後チ飄然世ヲ棄テ、僧トナ

憤激

「た」ハ「アミエン」ノ産ニシテ何人ソ



リ身ヲ寂漠ノ境ニ置キタリシガ終ニ「せるされむ」ニ詣リ親シク土耳其人ノ暴虐ヲ目撃スルニ及ビ慨然トシテ感動シ「余ハ聖墓ヲ土耳其人ノ手裏ヨリ救出スベキノ天命ヲ受クタリ」ト深ク信ヰテ此大任ニ當ルコト、ナレリトゾ

(第一)十字軍(紀元一千九十六年ヨリ一千九十九年マデ)

(第二)十字軍(紀元一千百四十七年ヨリ一千百四十九年マデ)

(第三)十字軍(紀元一千百八十九年ヨリ一千百九十二年マデ)

今、上ニ記載シタル三回ノ十字軍ハ十字役中ノ大ナルモノトス次ヲ尙ホ第四第五第六第七第八ノ十字軍ヲ企テシト雖也或ハ全ク靈地

ニ向ハズ或ハ著シキ結果ヲ生セズシテ廢メリ

十字軍ハ全クまほめつと教徒ヨリ靈地ヲ恢復スル直接ノ目的ヲ達セズシテ廢ミタリ然レドモ此數度ノ大遠征タル暗ニ甚ダ樞要ナル結果ヲ生シタルモノナリ

十字役中  
ノ大ナル  
第一十字  
軍第二十  
軍第二十  
軍第三十  
字

此軍ノ目  
的ハ如何  
ヤナリシ

以下結果  
ノ説明結  
果第一ノ結  
果如何

商業上ニ  
及ボセル  
影響如何

封建制度  
ノ上ニ及  
ボセル影  
響如何

十字軍ノ起ルヤ歐洲西國諸國民同心協力シテ之レニ從事シタルヲ以テ其相識ルコト昔日ニ倍シ隨テ艱難相救フノ義氣ヲ長シ同情相憐ムノ情ヲ起シ且ツ更ニ思想ヲ濶太ナラシムルニ至リシコト等ハ是十字軍ヨリ生シタル第一ノ利益ナリシ  
次ニ十字軍ハ技術製造ニ關シ生産及運輸ノ方法ヲ東國ヨリ携歸テ技術製造等ヲ進歩セシメタリ且近代ノ商業ヲ始メテ萌芽ヲ發セシモ實ニ此遠征ノ間ニ在リ何トナレバ伊太利ノ海岸諸邦ハ或ハ船ヲ出シテ十字軍ヲ運送シ或ハ糧食并ニ軍器ヲ運輸セルヲ以テ地中海ノ商賣及ヒ渡航速ニ増加シ香料並ニ東洋ノ奢侈品ヲ嗜好スル風漸ク歐洲ニ傳播シ又ウエにすぜのあ及ヒ其他伊太利諸邦ノ民地中海ノ東岸并ニ希臘帝國ノ海岸ニ商品藏蓄場ヲ設立スルニ至レリ且又十字軍ハ大ニ封建制度并ニ貴族政治ノ勢力ヲ滅殺セリ何トナレバ十字軍起リテ以來數多ノ封建貴族ハ或ハ其采地ヲ分割シ或ハ



武官ノ上  
ニ及ボセ  
ル影ヲ如  
何名ヲ如  
綽名ヲ如  
衣○旗○職

智力上ニ  
及ボセル  
影響如何

之ヲ賣却シテ軍ニ從ヒシヲ以テナリ  
是レヨリ先キ武官即チ騎士ナルモノ歐洲ニ存セリト雖モ其勢力ト  
威權ヲ得ルニ至リシハ此等ノ軍役ニ由ルモノ多シ其奇異ナル綽名  
戎衣及旗幟等ヲ使用スルニ至リシハ全ク危急紛擾ノ秋ニ臨ミ基督  
教各國ヨリ來會セル軍人ヲ容易ニ識別スルノ必要ヨリシテ此時ニ  
始マリシト云フ

十字軍ハ畢竟狂憤ノ氣ヨリ起リタルモノナリト雖モ其爭亂久キニ  
亘リ其氣漸ク減殺セリ初メ基督教徒ハまほめつと教徒ヲバ概シテ  
之ヲ蛇蝎視セシト雖モ漸ク彼我相知ル曉ニ至リ思ヒノ外彼ノ教徒  
ノ尊敬スベキ一種ノ特質アルコトヲ悟リ騎士等ヲシテ之ヲ尊崇シ  
之ヲ歎美セシムルニ至レリ又廣ク他國人ト交接セシヲ以テ歐洲兵  
士ノ心ハ寛大ニ赴キ思想濶大智慮深遠トナシ其兵ヲ收メテ本國  
ニ歸ルヤ全ク別人ノ如クナリシト云フ故ニ十字軍以來智識上ノ復

興全歐洲ニ行ハレタリト云フモ過言ニアラザルナリ

### 中古ノ暗黒時代トハ第何世紀ヨリ第何世紀ニ至ルノ 年間ヲ指スヤ

中古ハ第五世紀ノ末葉ヨリ第十六世紀ノ末葉ニ至ル中間實ニ一千  
年ノ長キ歲月ヲ包含スルト雖モ其中第五世紀ノ末葉ヨリ第十一世  
紀ノ末葉ニ至ル六百年ノ間ハ文明史トシテハ殆ソド一箇ノ記スベ  
キ事ナキヲ以テ史家ハ之ヲ稱シテ暗黒時代即チ不文蒙昧ノ時代ト  
云フナリ

### 中古文明ノ退歩セシ原因如何

羅馬帝國ノ時代ニハ高度ニ達シタリシ文明ガ中古即チ第五世紀ノ  
頃ニ至リテ忽然退歩シテ再ビ野蠻ノ境界ニ陥リシハ實ニ怪ムベク  
又驚クベキノ限リナリ論者或ハ文運退歩ノ原因ヲ帝國ヲ顛覆シタ  
ル「ちゆーとん」ノ蠻族ニ歸スト雖モ全ク此ニ由ルノミト云フベカラズ



羅馬文明  
ハ漸ク腐朽シ  
復タ如何トモ  
スベカラザル  
ノ勢アリシナリ  
縱ヒ  
蠻民ノ來襲  
アラザラシメ  
シモ猶且自ラ  
廢頽シタルヤ  
明カナリ蓋シ  
羅馬帝國ノ  
晩年ニ至テハ  
世人一般ニ  
文學ヲ崇尙ス  
ルコトヲ知ラズ  
其傑作大著  
ノ世ニ出テザ  
ルハ固ヨリ自  
然ノ勢ナリ而  
シテ彼ノ未開  
ナル「ちゆい  
どん」ノ蠻族  
ガ侵入シテ  
文學益々萎  
靡シテ振ハズ  
終ニハ全ク廢  
滅ニ歸セリ加  
之當時ノ「ち  
ゆいどん人」  
ハ悉ク文學ヲ  
蔑視セシテ以  
テ幸ニシテ此  
以前ニ羅馬人  
民及ヒ羅馬文  
明ノ薰化ヲ受  
ケタル羅馬外  
領ノ人民ノ如  
キモ亦忽チニ  
蠻民ニ薰染シ  
不文無學ノ憫  
ムベキ地位ニ  
沈倫セリ

何故ニ傑  
作大著セ  
ルニ出ザ  
ルヤ  
出ザルニ  
由ルハ固  
ヨリ自然  
ノ勢ナリ  
而シテ彼  
ノ未開ナ  
ルナル「  
ちゆいど  
ん」ノ蠻  
族ガ侵入  
シテ文學  
益々萎靡  
シテ振ハ  
ズ終ニハ  
全ク廢滅  
ニ歸セリ  
加之當時  
ノ「ちゆ  
いどん人  
」ハ悉ク  
文學ヲ蔑  
視セシテ  
以テ幸ニ  
シテ此以  
前ニ羅馬  
人民及ヒ  
羅馬文明  
ノ薰化ヲ  
受ケタル  
羅馬外領  
ノ人民ノ  
如キモ亦  
忽チニ蠻  
民ニ薰染  
シ不文無  
學ノ憫ム  
ベキ地位  
ニ沈倫セ  
リ

西部歐羅  
巴人民ノ  
變化シタル  
原因如何  
（十五）

中古講學ノ廢滅セシ原因如何

講學ノ廢滅シタル原因ハ一ナラズト雖モ主トシテ當時西部歐羅巴人民ノ言語ハ甚ク變化シタルニ因ル彼ノ「ちゆいどん人」ノ侵略以

所以イカ  
羅馬種語  
及ヒ西語

當時存在  
ノ書籍ハ  
何カヲ以  
テ記セル

寺院僧庵  
宗教上ノ  
教育ハイ  
カ

來二三百年ノ間ニ於テ其言語ガ次第々々ニ變遷シテ一種異樣ナル羅馬語トナリ所謂羅馬種語(第三十八題ヲ看ヨ)ノミ諸國ニ行ハレテ眞ノ羅馬語ヲ用フル者ハ獨リ専門ノ學者ノミトナリシコト是ナリ而シテ言語ノ轉訛ハ音ニ之レノミニ止マラズ方言ノ異同諸國ニ起リ此羅馬種語又更ニ一變シ今ノ所謂伊太利語佛蘭西語及ヒ西班牙語トナリシ事皆原因ノ重ナル者ナリ

羅馬語既ニ死語トナリ復タ世ニ行ハレザルニ至リシカバ人々知識ヲ得ルノ道ナシ特ニ學問ニ志スモノアルモ蓋シ當時存在ノ書籍ハ皆羅馬語ニテ記セルヲ以テ之ヲ理解スル能ハズ而シテ其能ク理解スル語ヲ以テ記シタル所ノ書籍ハ未ダ一モ之レアラズ是ニ於テ羅馬語ヲ講ズルモノ未ダ全ク滅絶セザルモ唯ダ僅ニ其命脈ヲ存スルノミ學校ニ於テハ尙之ヲ講究スレドモ是等ノ學校ハ寺院僧庵ニノミ之ヲ設ケ唯ダ宗教教育ニ供用スルヲ以テ人民ハ概シテ學問ノ道



ナシトイフモ可ナリ

(一十五)

中古ノ大學校中有名ナルモノヲ列記セヨ

中古ニ於テ歐羅巴ノ人心沈倫シ文學及ヒ理學ニ關スル事皆衰微ヲ極ムルノ事情ハ既ニ第四十九題并ニ第五十題ノ答案ニ述ベタリ而シテ其復興ノ兆候中最モ夙ニ顯ハレタルモノ、一ハ大學校ノ創立是レナリ

巴里大學ハ如何  
おつくす  
大學ハ如何  
何  
大學生二萬  
何  
大學生二萬  
何  
大學生二萬  
何  
大學生二萬  
何  
大學生二萬

「巴里大學」ノ世ニ顯ハレシハ第十二世紀ノ始メニシテ當時あべらるど氏其教授タリあべらるど豪膽ト才藝ヲ以テ著名ナリ英國ノ「おつくす」を「おつくす」ト大學ハ第九世紀ノ頃あるふれつど玉ノ設立スル所タリ而シテ第十一世紀ニ至ルマテハ極メテ微々タリシナリ一千二百年ニハ學生三千ヲ有セリ第十二世紀ノ間ニハ「ぼろんな」ノ大學ニ學生一萬アリ「巴里」ノ大學ハ第十五世紀ニハ學生二萬五千アリ「ぼろんな」ノ大學ハ第十三世紀ノ創立ニ係ル日耳曼大學ノ最モ早キモノ

ふるぐ  
大學ハ如何

(二十五)

「亞刺比亞人」ガ中古歐羅巴ノ智力發達上ニ及ボシタル影響ハ何ゾ

ノハ「ふるぐ」ノ大學ニシテ一千三百五十年ノ設立ニ係ル其他中古ノ學校中有名ナルモノハ「ぼろんな」でゆゑ「あつ」も「べんりる」及「び」さらまんなカノ諸校ナリ

のさ  
大學校  
司  
圖書  
大  
圖書  
司  
圖書  
大  
圖書  
司  
圖書

あるは  
城堡

中古歐羅巴ノ智力發達史中最モ人心ヲ感動セシムルモノハ「亞刺比亞人」ガ學術ノ攻究ニ力ヲ盡セシコト是ナリ彼ノ大學校司天臺圖書館及ヒ博物館ヲ創立シ希臘及「あれきさん」どりヤ府ノ逸書ヲ蒐集シ且希臘及羅甸古書ノ大半ヲ中古ノ歐洲人ニ傳ヘタルハ實ニ「亞刺比亞人」ノ力ニ由ルナリ又今現ニ存在セル「あるはむぶら」ノ城堡ノ如キモ全ク「亞刺比亞人」ノ建築スル所ニシテ高尙ナル建築風ノ好摸範トシテ尊重セラル是亦記憶スベキ事實ナリ  
加フルニ第十世紀ノ頃西班牙ハ「さらせん人」ノ管下ニ屬シテ實ニ學



諸學ノ起  
源ハイカ

あらびや  
代数  
酒橋  
金術  
點頂  
點反

化學ノ發  
端ハイカ  
化學書  
嚙矢タル  
モノハ

(三十五)

術ノ中心トナレリ是ヲ以テ諸學ノ起源ヲ探究セント欲セハ必ズ此  
國ニ於テセザルベカラズ而シテ世人ガ常ニ他ノ諸國ヨリ起レリト  
思惟セル所ノ諸學モ亦悉ク其源ヲ「さらせん人」ニ取レルナリ蓋シ今  
日吾人が使用セル「あらびや」數字ハ即チ「さらせん人」ヨリ傳得セルモ  
ノニシテ其他「あるぜぶら」(代数)「あるこ」(酒精)「あるけみ」(鍊金術)「ぜ  
にす」(頂點)「ね」(反頂點)等ノ科學上ノ諸語ハ皆是「あらびや語」ノ變  
體ナリ以テ此著名ノ人民ガ中古ノ學術上ニ及ボセル所ノ影響ノ大  
ナリシヲ證スヘシ且今日ノ化學ノ發端ハ「さらせん」ノ鍊金家ノ講究  
ニ因ルコトハ世人ノ能ク知ル所ナリ又始メテ化學書ヲ著述シタル  
モノハ「いえ」(ベール)「あほもつさ」(どじあふえらる)「そふい」(ニシテ)後人  
ハ此人ヲ「げば」ト呼ブ第八世紀ノ亞刺比亞人ナリ

### 日耳曼國ノ起原ヲ問フ

「さらせん」帝崩シテ(八百十四年)子路易立ツ路易三子アリ其版圖

しまんや  
分レテ  
何ナリ  
シヤ

日耳曼  
國體一  
變ノ如  
クナリ

初代ノ帝  
統

ヲ分チテ三子ニ與フ三子與ニ其封疆ヲ争ヒ終ニ「グエ」るだんノ和約  
(八百四十三年)ヲ以テ其境界ヲ定ム此ノ如クニシテ「さらせん」帝  
國(第四十四題參照セヨ)分レテ日耳曼、佛蘭西及ヒ伊太利ノ三國ト爲  
ル然レドモ此三國皆長ク「さらせん」ノ子孫ノ治下ニ立タサルナ  
リ

「さらせん」ノ崩後「かるびんじやん」統ノ日耳曼國ニ王タルコト殆  
ソド一百年而シテ大權下ニ移リテ常ニ大諸侯ノ掌裡ニ在リ而シテ  
九百十一年「かるびんじやん」統ノ末王崩ズルニ及ビ五侯相議シテふ  
らんこに「あ公」こんらつどヲ撰擧シテ王ト爲ス是ヨリ日耳曼ノ國體  
一變シテ撰任王國トナレリ  
こんらつど王ノ崩スルヤ「さくそん」人及「ふらんこ」に「あ人」共ニ「へんり  
」ヲ擧ゲテ王位ニ登ラシム(九百十九年)之ヲ「へんり」第一世ト稱ス  
王ハ「さくそん」人ニシテ「獵禽」王ノ綽名アリ實ニ「さくそん」王統ノ祖



ニシテ子孫相承ケ日耳曼ニ君臨スルコト五世一百有餘年日耳曼ノ國ヲシテ遂ニ歐羅巴ノ最大國タラシメタリ

(四十五)

紅薔薇  
白薔薇

### 英國薔薇ノ戰爭トハ何ゾ

一千四百五十五年らんかすどるよ、く、兩家王位ヲ争ヒ英國大ニ亂ル之ヲ薔薇ノ戰爭ト云フ蓋シらんかすどる家ハ紅薔薇ヲ以テ其徽章トシよ、く家ハ白薔薇ヲ以テ其徽章トシ各其黨ヲ分チ對陣セシテ以テ此名ヲ得タリ兩黨相戰フテ六年竟ニよ、く家捷ヲ得テ之トク、ド第四世王位ニ登レリ

其結果

此薔薇ノ戰爭ハ實ニ英國歴史上ニ重大ナル關係ヲ有シタリ其故ハ英國ノ封建制度ハのるまんノ勝戰ニ基ヒテ次第ニ基礎ヲ堅フシらんかすどる家ノ朝ニ至リテ其盛ヲ極メシコトハ其國王ヲ強迫シテ屢々政治上ノ改良ヲ行ヒシ事ノ貴族ノ手ヨリ出テザルモノナキヲ見テモ知ルベキナリ然ルニ薔薇戰爭ノ爲メニ最モ強大ナリシうゐ

英國政治  
上ノ局面  
ハ何故ニ  
大陸ト異  
ナルヤ

## 第四章 近世史

### 葡萄牙人ノ亞弗利加發見并ニ之ヲ廻航シテ印度ニ達セシマデノ事實ヲ記セ

(五十五)

へんり  
ハ何人ゾ

航海上ノ發見ニ先鞭ヲ着ケタルハ葡萄牙人ニシテ是レ其國ノ皇子へんりノ保護ニ依レリへんりノ聰明ニシテ見識アリせんとびんせんと岬ニ退居シテさくれす港ニ天文臺ヲ設ケ四方ヨリ天文及航海ニ精熟セル學士ヲ招集シ偕ニ航海上ノ大業ヲ講究セシガ特ニへんりノ注目シタル點ハ亞弗利加ヲ廻航シテ東印度ニ達スルノ航路ヲ開クニ在リシナリ

へんり  
ノ注目  
シタル  
點ハ  
何カ  
目的  
ナリ



亞米利加  
ノ極南頭  
ノ極南頭

ヘンリ  
ニ次テ航  
海發見  
ハ誰レシ  
ハ誰レシ

新半球

當時世人ノ知レル亞弗利加ノ極南頭ハ「なん岬」ニシテ蓋シ「なん」ハ不  
可ノ義ニシテ是ヨリ以外ニ進航スル能ハザルノ意味ヲ顯ハセリ然レ  
ドモヘンリ「」ニ屬セル士官等ハ遂ニ此岬ヲ廻航シテ進ミ「ぼざど」  
「あ岬」ニ達シタリ更ニ之ヲモ過キテ熱帶地方ニ進入セシカバ「なん岬」  
以南ヲ怖レタル妄想モ消散シ益進ノテ「セチガル河」ヲ發見シ「ぶらん  
こ岬」ヨリ「ぼるで岬」ニ至ル亞弗利加海岸ノ過半ヲ探リ又「ぼるで岬」及  
「びあぞ」ノ諸島ヲ發見セリ斯クテ一千四百六十三年ヘンリ「」ノ薨  
スルノ前葡萄牙人ノ發見ハ已ニ赤道ヨリ五度以内ノ區域ニ及ヘリ  
ヘンリ「」薨後ハ發見ヲ務ムルノ精神一時其勢ヲ失ヒタレモ其姪孫  
「じよん」第二世ノ一千四百八十一年王位ニ即クニ及ンテ更ニ銳意獎  
勵ヲ加ヘタルヲ以テ其精神再ビ奮興セリ葡萄牙人が初メテ赤道ヲ  
横キリテ新半球(南半球)ノ星ヲ見シハ實ニ「じよん」王ノ治世ニ在リ一  
千四百八十四年ニ至リテ葡國ノ軍艦赤道以南一千五百里ノ遠キニ

風雨岬

喜望峯

(六十五)

航シ「ぎ」に「あ」海岸ニ殖民地ヲ設ケ此ニ定時貿易ヲ開ケリ  
是ニ於テ葡萄牙人ハ亞弗利加ヲ週航シテ印度ニ達スルヲ得ベシト  
思議スルニ至レリ一千四百八十七年「じよん」王位ニ即クニ及ンテ更  
ニ南進シテ「かぼ」と「めんどん」と「そ岬」即チ風雨岬ヲ發見シ又之ヲ廻  
航シ其海岸ノ東北ニ屈曲セルヲ見テ印度ニ達スルノ希望愈々鞏固  
トナリ王ハ此岬ヲ改稱シテ「かぼ」で「ぼ」あ「えす」へ「らん」さ「即チ喜望峯」ト  
云フニ至レリ此喜望ノ名ハ遂ニ空カラズ「あすこ」だが「ま」ト云フモ  
ノ遂ニ亞弗利加ノ南端ヲ廻航シ一千四百九十八年五月まらば「」ノ  
「かり」かつ「と」ニ達ス以テ印度ニ到ルノ海路始メテ開クニ至レリ(第五  
十六題及ヒ第七十題ヲ看ヨ)

地球一周ノ後ニ至リ歐洲人が一般ニ心ヲ商業ニ傾ケ  
シハ何故ゾ

ころんばすが亞米利加ヲ發見セシ時代(一千四百九十二年)ニ於テ商



地球ヲ周  
航ヲ畢ヘ  
タル後諸  
國人ノ心  
ハイカシ  
クハ

貨殖

(七十五)

業ノ進歩甚ダ速ナリト雖ヒまぜらんノ船隊ガ地球ヲ周航千五百十  
九年ヨリ千五百二十一年ニ至ルセシマテハ世人皆尙更ニ發見スベ  
キノ土地甚ダ多カルベシト思惟シ只管心ヲ斯ニ傾ケタリシガ地球  
ノ周航ヲ畢ヘタルノ後ハ諸國ノ人々皆新地ヲ穿鑿セシヨリハ寧ロ  
既ニ發見セル地ニ於テ其事業ノ大成ヲ圖ルニ若カズト思惟スルニ  
至レリ歐羅巴ノ海軍漸ク強盛ヲ致シ貨物ノ製造日ニ其數ヲ増加シ  
先キニ貧弱ナリシ邦國モ變テ富強トナリ帝王及政府モ皆貨殖ハ  
國民ノ聲譽繁昌ノ根源タルヲ知リ只管意ヲ商業ニ注クニ至レリ  
(第五十五題及ヒ第七十題ヲ看ヨ)

近代文學復興ノ顛末ヲ述ベヨ

第十五世紀ニ於テ歐羅巴ノ人心ハ偏ヘニ航海發見(第五十五題及ヒ  
第五十六題ヲ對照セヨ)ノ精神ニ富ミタリト雖ヒ之レト同時ニ又大  
ニ智力ヲモ奮起セリ之ヲ文學ノ復興ト稱ス文學復興ノ兆ハ已ニ中

心ヲ没  
んす  
ちの  
府ニ  
及ビ  
落ル  
及シ  
希羅  
人ノ  
識ニ  
アル  
モ  
セハ  
シヤ

(八十五)

古(第五十一題及ヒ第五十二題ヲ對照セヨ)ノ末葉ニ發セシモノニシ  
テ「こんすたんちの」ぶる府ノ没落千四百五十三年五月三日土耳其  
人城壁ヲ砲撃シテ之ヲ打破シ東羅馬帝國全ク滅亡スニ先ツ久シキ  
以前世人ノ古學ヲ嗜好スルノ心漸次再興セシガ其没落スルニ及ビ  
城中ノ希臘人ニシテ學識アルモノ多クハ逃レテ伊太利及ヒ西部歐  
羅巴ノ各地ニ移住シテ古學ヲ各邦ニ傳播セリ是ニ於テ學者中古書  
ノ斷編逸書ヲ搜蒐シテ銳意之ヲ考究スルモノ漸次輩出シ其苦學ノ  
功ニ依リテ希臘及ヒ羅馬ノ古書中貴重ニシテ萬世ニ傳フベキモノ  
アルコトヲ發見シ又勵精ニ由リテ人心ヲ開發シ印刷機ノ發明ヲ促  
シ且ツ之レヲシテ大成スルニ至ラシメタリ

印刷術ノ起原ヲ詳記セヨ

印刷術ヲ名クテ萬般ノ技藝ヲ保存スルノ技術ナリト云フハ頗ル適  
當ノ言ナリ而シテ總テ事物發明ノ由來ヲ記錄スル用ニ供スルノ印



印刷術起  
原ノ争論  
イカシ

印刷術ニシテ獨リ自己ノ起原ヲモ毫モ記録スル所ナキハ豈ニ亦印刷術史上ノ一奇事ナラズヤ此技術ノ起原ハ或ハ「ばれ」府ニ在リトシ或ハ「めんつ」府ニ在リトシ或ハ「すどら」府ニ在リトシ各偏頗ノ心ヲ挾ンテ其起原ヲ自己ノ府民ニ歸セドモ此争論タル全ク事實ヲ争フモノヨリハ寧ロ言語上ノ争ヒノミニ止リテ畢竟スルニ印刷ト云フ言辭ノ見解ヲ異ニセシヨリ起リシガ如シ若シ印刷法ノ發明ヲ以テ疑問ノ要點ト爲サンカ其名譽ハ「ばれ」府ノ人ろ「れん」す、  
コすたニ歸セザルヲ得ズ始メテ文字ヲ木ニ刻シ以テ紙面ニ印スルヲ發明シタルハ此人ナリ、若シ又タ活字ヲ以テ要點ト爲サンカ之レガ發明ノ功績ハ「めんつ」ノ人じよんくしてんべるぐニ歸シ、而シテ金屬ノ活字ヲ發明シタルハ實ニしゆいふえるトふを「すどら」府ノ人ナリ、功ニ歸セサルヲ得ズ此二人ハ俱ニ「すどら」府ノ人ナリ、或ハ云フ「めんつ」人じよんくしてんべるぐガ印刷術ヲ發明セシハ一

印刷術ノ  
事始メテ  
録ニ傳ハ  
シリハ何  
ヤ頃ナル  
年頃ナル  
印刷術發  
明ノ利益  
イカシ

(九十五)

火藥ヲ發  
明セシハ  
誰ゾ  
始メテ之  
ヲ戰爭術  
ニ用ヒシ  
ハ誰ゾ

千四百五十六年ニ印刷ノ事始メテ記録ニ傳ハリシハ一千四百二十三年ナリ所謂「せん」とくりすとふあるノ印刷ハ彫刻セル數行ノ文字ヲ一葉ノ單面ニ印セルモノニシテ實ニ此年ニ成レリ、此ノ如ク活版印刷術ヲ發明セシヨリ從來騰寫ノ勞ヲ省キ書冊ノ數大ニ増加シ且又大ニ其價直ヲ減シタリ是レ歐羅巴人民ノ智識ガ速カニ其境界ヲ擴張セル所以ナリ

### 火藥發明ノ時期及ヒ其發明ガ封建制度ニ如何ナル影響ヲ及ボセシヤ

火藥ハ第十三世紀中英吉利ノ一僧ろ「じあ」ベ「こん」ノ發明ニ係ル而シテ之レテ戰爭ニ用井タルハ發明ノ時ニ後ル、コト甚ダ遠シ或ハ一千三百三十年ノ頃、日耳曼ノ藥賈べるとるどしゆわると始メテ之ヲ戰爭術ニ用井タリト云フモノアレド是ヨリ先キ「む」る人ハ已ニ之ヲ戰爭ニ用井タルモノ、如シ



火藥發明  
ガ封建制  
度ニ及ボ  
シタル影  
響イカ  
ン  
堅甲鐵壁

爭論

(十六)

封建制度ノ廢滅ニ與リテカアルモノ其數少カラズト雖モ火藥ノ發明アリテ戰略上ノ變遷ヲ促シタルヲ以テ最モ大ナルモノトス何トナレバ騎士ノ堅甲モ侯伯ノ鐵壁モ砲丸ノ銳鋒ニ對シテハ毫モ其効ナクレバナリ

九十二

### 宗教改革ノ起端及其結果ヲ詳記セヨ

第十六世紀ノ初ニ至リ宗教論大ニ沸騰シ教會ノ實務上ニ不法不正ノ點少カラザルコト羅馬法王ガ政治ニ干涉セント主張スルハ非ナルコトヲ駁撃スルモノアリ且人々皆漸ク當時教會ニ於テ信仰スル所ノ教義並ニ教會ニ於テ實行スル所ノ儀式ハ多ク聖書ハ本意ニ背戻スルヲ知ルニ至レリ

此時ニ當リ別ニ一爭論ノ起ルアリ其事柄タル甚ダ輕小ナリト雖モ宗教改革ノ一大氣焰遂ニ是ヨリ西部歐羅巴ノ大半ニ蔓延スルニ至レリこれを第十世ノ羅馬法王ノ位ヲ襲クヤ教會ノ帑藏累世驕奢ノ爲

教會ノ一  
大利益ト  
ハ何ゾ  
贖罪制

まるてん  
るいてん  
ハ何人ゾ

九十二條  
ノ檄文ハ  
侯伯ハ何  
故ニ左  
租セシヤ

メニ既ニ空乏ニ屬スルヲ發見セリ故ニこれをハ苦思ノ餘一計ヲ案出シテ之ヲ救ハントセシガ終ニ嘗テ先代ニ行ハレテ教會ノ一大利益タリシ贖罪制ヲ採用シ廣ク之ヲ販賣セリ而シテどみにつく派ノ僧侶ハ日耳曼ニ於テ此制ヲ專賣スルノ權ヲ占メタルヲ以テ同派ノてつせるヲ以テ代理人トシ之ヲ賣リシガ其法不理ノ事多ク特ニ「お」がすちん派ノ僧侶ニ對シテハ最モ然リトス  
まるてんるいてんハ「お」がすちん派ノ一僧ニシテ當時「ういつてん」べるぐ大學ノ神學教授タリシガ首トシテつせるニ抗論スる「いてん」初メ「まぐでぶるく」ノ大僧正ニ請ヒ此賣買ヲ禁止センコトヲ求メテ其志ヲ得ズ終ニ贖罪ノ制ヲ賣ルハ正理ニ悖リ且聖典ニ背ク所以ヲ痛論セル九十二條ノ檄文ヲ發行シテ學者公衆ニ訴フ是レ實ニ一千五百十七年ノ事ニシテ日耳曼ノ侯伯中熱心ニる「いてん」ノ説ヲ奉スルモノ歎カラズ蓋シ侯伯ハ僧侶ガ羅馬ノ裝飾ニ費サンガ爲メニ巨







キ次期ノ宗教總會ヲ開クマテ決シテ改宗ヲ爲ス可ラズト敕ス蓋シ  
宗教改革ヲ遮ラント欲スレバナリ。るゝてゐるノ朋友及ビ門徒等爭フ  
テ之ニ抗論ス。是ヨリ世ニ新教ヲ唱フルモノヲ呼ソテ。ぶ。ろ。て。す。た。ん。  
と。ト云フ。ぶ。ろ。て。す。た。ん。と。トハ抗論者ノ義ナリ。後チ一千五百五十五  
年ニ至リ日耳曼帝已ムテ得ズ新教徒ニ信仰ノ自由ヲ得セシメタリ。

### 日耳曼帝ちやトれす第五世ノ性行ヲ評セヨ

ちやトれす第五世ハ當時第十六世紀ノ中頃マテノ諸帝王ガ有セシ  
如キ惡徳凶行ハ概テ之ヲ有セザリシ然レドモ其德行タル積極的ノ  
モノニアラズシテ寧ロ消極的ノ者タリ。是レ其稟性冷淡ナルニ因ル  
ガ如シ平素沈黙ニシテ喜怒哀色ニ現ハル、コト稀ナリ其識見或ハ卓  
絶ナキモノナキニアラズト雖モ其汲々トシテ營ム所ハ是レ私利ニ  
シテ獨リあうすどりあ家ノ強盛ヲ望ム壯歲ニシテ偉業大功ヲ成セ  
リト雖モ晩年ニ至リテハ頻リニ失敗セリ此失敗ノ原因タル之ヲ知

帝ノ德行  
ハ如何

(一十六)

帝ノ專  
ム所ハ  
何シニ  
ヤ

帝ガ失敗  
ノ原因  
イ

進化ノ人  
だすべ  
氏ノ人  
所進一  
ナリ第  
題ノ進  
モ亦然  
リ

(二十六)

當時國會  
カノ有  
機イ

ルハ容易ナリ是唯帝ガ其時勢ヲ知ルノ明ヲ缺クニ坐スルノミ思フ  
ニ帝ハ恰モ中古最後ノ勇將ニシテ又其維持者タルガ如キ風アリト  
雖モ當時中古ハ已ニ經過シ去リ新智識新宗教勃興シテ更ニ一新時  
限ヲ創出シ近世ノ精神展々トシテ進歩シ且ツ確固ナルガ故ニ西班  
牙及印度族ノ君主ちやトれすタリトモ焉ゾ能ク此進化ハ大勢ニ背  
イテ其目的ヲ達スルヲ得ンヤ

### 英蘭王へんりー第八世ノ治世ノ利益ハ何ゾ

へんりー第八世ハ壓制ヲ以テ國ヲ治メシト雖モ自由ノ進歩ニハ裨  
益スル所少シトナサズ國會ニ實權ヲ有セシメシコトハ實ニ此王ヲ  
以テ始メトス當時國會ハ唯ダ王ノ願使ニ從ヒシト雖モ而モ議院ノ  
權力ノ重大ナルヲ知リ後來諸王ガ專横放恣ヲ制止スルノ先例ヲ置  
キタルハ此際ニ在リ又王ハ貴族ヲ抑制セシト雖モ平民ヲ愛惠セシ  
コト少カラズ租稅ハ之ヲ輕減シ且ツ大權ハ政府之ヲ掌握シテ確然











阿人及理學等  
家及理學等  
すべし  
いれり  
日松門  
左ノア  
門本等  
衛近

百二  
少ナクトモ十六七年間ハ俳優又ハ劇場支配人ノ職業ヲ行ヒタリ  
然レドモ幾クナラズシテ氏ハ戯曲作者トナリ一千五百九十年ノ頃  
初メテたいあの公子ペりくりすヲ著シ之レニ次テ著ス所ノ戯曲ハ  
其數殆ンド三十六七而シテ氏ガ戯曲ノ拔群絶類ナル實ニ空前絶後  
ノ好結果ヲ現ハシ莫大ノ所得アリシカバ氏ハ忽チ諸大劇場ノ座元  
即チ持主トナリ更ラニ非常ノ收入額ヲ得ルニ至レリ氏ヤ已ニ當世  
ノ縉紳才子及ビ詩人等ト親シク交際シテアリシカド心竊ニ故郷ヲ  
戀ヒ常ニ退隱スルノ時ヲ冀望シ一百一十以上ハ附屬地アル新  
宅ヲすどらつぼるどニ求メタリ斯クテ氏ハ一千六百十二年ニ乃チ  
氏ガ名譽ノ正ニ盛ナル時ヲ以テ故園ニ退隱シ閑日月ヲ樂ム十四年  
思フニ如此清福ヲ全フシタル者古今文學史中他ニ之レアラザルハ  
シ氏ハ一千五百六十四年四月二十三日ニ生レ一千五百十六年四月  
二十三日ニ没ス齡正ニ五十二歳ナリ氏ノ未亡人ハ氏ニ後ルコト

(五十六)

七年ニシテ卒ス一男二女ヲ生メリ其男子ハ一千五百九十六年ニ没  
シ二女皆人ニ嫁ス其一人ハ男子三人ヲ擧ケシカド皆子ナクシテ没  
シ今ヤ此大詩人ノ正統ノ代表者ハ一人モコレナシト云フ  
英國革命ノ際其國王ちやいれす第一世ガ刑セラレタ  
ル所以ヲ評セヨ

何故ニ人  
民王ニ  
對シテ  
穩妥ニ  
シテ  
施スル  
ヤハ

(六十六)

英國王ニシテ斷頭臺上ニ死セルモノハ獨リちやいれすアルノミ實  
ニ不法ノ所爲ト謂フベシちやいれす即位ノ誓約ヲ破リタルガ爲メ  
之ガ王位ヲ廢貶セシムレバ可ナリ何ゾ之ニ刑戮ヲ加フニ及バンヤ  
然レドモ退テ當時ノ情勢ヲ考フルニ當時ハ其ノ國民銳意革命ヲ熱  
望スルヲ以テ勢平穩ノ處置ヲ施スベキニアラズ畢竟王ガ當時人民  
ノ爲メニ犧牲ニ供セラルハニ至ルモノハ是レ其時勢ヲ洞察スルハ  
明ニ乏シキニ由ルナリ

英國共和政治ノ總裁官タリシくるんるえるノ内治及



外交ノ政畧ヲ述ベヨ

くろんうゑる英吉利ヲ治ムルニ專制壓抑ヲ以テシ其威權ヲ鞏固ナ  
ラシメンガ爲メ全國ヲ分チテ十一區トナシ每區中將一人ヲ置キ之  
ニ無限ノ權力ヲ授ケテ以テ下ニ臨マシム國民之レニ抗スル能ハズ  
妄ニ罰金ヲ課セラレ或ハ獄ニ繫ガレ或ハ「ば」ばど」ニ放タレテ奴  
隸トセラル  
くろんうゑるノ外交政畧ハ其剛毅ナルコト猶ホ内治ニ於ケル政畧  
ハ如シ是ヲ以テ其國威ヲ振ヒ或ハ水陸ノ軍ヲ出シテ西班牙ヲ攻メ  
テ「じやめい」か島ヲ奪ヒ或ハ和蘭國ヲシテ和ヲ講ゼシメ或ハ歐羅巴  
ノ新教諸國ニ聯合シ以テ羅馬法王ニ迫リテ舊教君主ノ宗教惑溺ノ  
弊ヲ除カシメタリ

(七十六)

英吉利人ノ所謂紀元一千六百八十八年ノ榮光アル革  
命トハ何ゾ并ニ其結果ヲ叙セヨ

一千六百八十五年ちや「れ」す第二世崩シ其弟よ「く」公位ヲ繼ク之  
チ「じえ」むす第二世ト稱ス其位ニ在ル「ク」久カラズ且其間失政多シ  
王專ラ舊教ヲ以テ國教ト爲サ「コ」ヲ冀圖シ又王ハ我力能ク舊教ヲ  
挽回スベシト信ツ「ス」ちゆあ「ド」家ノ諸王ガ有シタル彼ノ君王ノ特  
權ヲ一ニ此目的「テ」ノミ使用セリ王ノ努力一時ハ其志ヲ達セシト雖  
モ民黨王黨終ニ共ニ之ヲ惡ミ相議シテ「あ」れん「じ」公う「い」りやむニ請  
フニ來リテ國民ヲ救濟センコトヲ以テス「ル」ニ至ル「う」いりやむハち  
や「れ」す第一世ノ孫ニシテ「じえ」むす第二世ノ姪ナリ且其女まり  
「ト」テ娶ル「ま」り「ハ」世ニまり「ト」第二世ト稱ス  
う「い」るやむ此招ニ應シ大ニ陸海軍ヲ募集シ一千六百八十八年英國  
ノ海岸ニ上陸ス「じえ」むす此ニ至ル「マ」テ未ダ嘗テ危難ノ已ニ切迫  
スルヲ知ラズ是ニ至テ救ヲ軍民ニ請ヒ且ツ國憲ニ違背スル所ノ政  
策ヲ除カ「コ」トヲ約スト雖モ軍民之ヲ聽サ「レ」ハ如何トモスル「コ」

う「い」りや  
む「ハ」何人  
ゾ



無シ巴ニシテ一軍隊ウイリヤむニ降り共ニじえ一むすニ抗敵セムト唱フ王乃チ先ツ皇子皇后ヲシテ佛蘭西ニ逃レシメ國璽ヲ「ライムス河」ニ投シ尋テ己レモ亦佛國ニ遁レるい第十四世ノ客トナリ「せんど、ぢゆるめん」ニ住セリ

王既ニ出奔ス代議士乃チ王位ノ虚シキヲ告ケ且ツ議決シテ曰ク「すちゆあ」ト家舊教ヲ奉スルモノヲシテ政柄ヲ握ラシムベカラスト又曰ク「宜シクウイリヤむ第三世及まり一第二世ヲシテ王位ニ登ラシムベシ」ト而シテ曩日ノ「ユト」ニ鑑ミ權理ノ章程ヲ制定シテ國民ノ自由ヲ確固ニシ將來ノ專政ニ備ヘタリ  
是レ即チ英吉利人が所謂一千六百八十八年ノ榮光アル革命ナルモノニシテ是レ實ニ虚稱ニアラズ何ントナレバ賢智ノ指揮ニ從ヒ且ツ正理ヲ以テ其目的トスル所ノ輿論ノ勢力ノ健全ナル所以ヲ示シタルベナリ蓋シ今ノ英吉利憲法ノ要點中此權理章程ニ基ク所甚ダ

多シ又「すちゆあ」ト家諸王ノ爲メニ破ラレタル英國古代ノ自由モ此章程ニ由テ恢復シタレバナリ要スルニ是レ英吉利國民ガ國王ニ勝チ一撃ニシテ彼ノ國王ノ特權ハ一國ノ憲法ニ比スレハ更ニ重大ニシテ且神聖ナリトノ迷説ヲ打破シ永ク後患ヲ絶チ以テ英吉利ノ國本ヲ固フシ富榮ノ基ヲ開キタル所以ナリ

三十年戦争ノ起原并ニ其終結ヲ叙セヨ

千七百年代ノ前半世紀間ニ歐洲大陸ニ起リシ政治上ノ一大事ハ彼ノ有名ナル三十年戦争ニシテ一千六百十八年頃ニ始マリ一千六百四十八年「うえすどふありヤ」ノ和約ニ終ル其戰場ハ終始日耳曼ニ在リ蓋シ此戦争ハ固ト日耳曼ノ新舊兩教徒侯伯ノ間ニ起リシ争亂ニ過ギザレドモ終ニハ歐洲諸國之ニ交渉シテ干戈ヲ交フルニ至リシナリ

抑モ此戦争ハ何ニ依リテ起リシヤト考フルニ五百年ノ間宗教上ノ







テオ略ニ  
富メル政  
治家ナリ

うのすこ  
ふありや  
ノ條約

此戰爭ガ  
日耳曼帝  
國ニ及ボ  
イカシク  
セル影響

(九十六)

黄金時代

朝廷ノ盛  
觀ハ如何  
建築ノ如  
詩文ノ館

んと帝已ニ崩シタリシカバ三十年戦争ノ末年ニ至リテハ佛蘭西瑞典日耳曼等ノ新君主若クハ新宰相相互ニ戦争ノ局面ニ當レリ其後佛國ノ名將テゆレん及こんで二人大ニ日耳曼ノ軍ヲ破ル日耳曼帝聯邦ノ瓦解ヲ防カンガ爲メ和ヲ講セザルヲ得ザルニ至リ遂ニ一千六百四十八年「まんすた」ニ於テ「うえすとふありや」ノ條約ニ署名シ兵亂始テ止ム

「うえすとふありや」ノ條約ハ歐羅巴史上ニ於テ最も重要ナル條約ノ一ニシテ之ニ依リ新教諸國ノ宗教獨立ヲ確定シ又瑞西和蘭二國ハ公然獨立スルコトヲ承認セラル條約中最モ重要ナルモノハ佛蘭西瑞典ノ兩國ガ日耳曼帝國内ニ若干ノ領地ヲ占得シ且平和ヲ維持セシガ爲メニ日耳曼ノ國務ニ干涉スルノ權理ヲ得タルコト是レナリ

三十年戦争ノ日耳曼帝國ニ及ボセル影響ハ極メテ不利タリシ單ニ專制若クハ寡人政治ノ小邦トナリ互ニ聯合スト雖モ相互ノ關係甚

疎ニシテ國躰上ノ感情殆ンド跡ヲ收メ日耳曼皇帝ノ權勢及人民ノ自由共ニ消滅シ爾後二百年間ノ日耳曼全國ノ衰微瓦解ハ實ニ此ニ基ク其所謂「ちゆ」どん種族ノ故郷即チ日耳曼國ガ非常ニ盡力シテ統一ニ歸シタルハ實ニ今代ノコナリ

佛蘭西ノ「黄金時代」トハ其國王第何世ノ治世中ナルヤ并ニ隆盛ノ有様ヲ叙セヨ

るい第十四世ノ治世中終リノ三十年間ハ佛國ノ權勢最も隆盛ニシテ外ハ兵威ヲ耀カシ内ハ繁榮ニ趨キ當時ノ史家稱シテ佛國ノ「黄金時代」ト云フ宰相こるば「心」ヲ國事ニ傾ケ通商ヲ盛ニシ工業ヲ勵マシ南部諸市邑ニ於テ羊毛絹布メリヤスノ製造大ニ興起シ國ノ富有ヲ致ス又海軍ヲ擴張シ殖民地ヲ増加シ世界到ル處トシテ佛蘭西ノ製産物ヲ仰カザルハ無シ

此時ニ當リ佛蘭西國朝廷ノ盛觀ハ前古未ダ嘗テ見ザル所ナリ壯麗



ナル建築宏壯ナル圖書館燦爛タル詩文理學校ノ雄偉ナル學士會院  
ノ宏大ナル及其他制度ノ具備セル實ニ歐羅巴ニ比ナク大王國ノ名  
譽ヲ馳セ風俗高雅言語優美紳縉大夫清雅ノ風行ハレ歐羅巴全洲之  
ガ爲メニ風靡スルコト遙ニ武器ノ力ニ優レリ蓋シ歐洲上流社會ノ  
競ツテ佛國ノ時樣風俗ヲ學ヒ佛語佛文ヲ尙フハ實ニ此ニ淵源セリ

ころんばすが阿米利加ヲ發見セシ原因如何

葡萄牙人ガ海路ヨリ印度ニ達セントスルノ冀圖ハ尙ホ一步ヲ進メ  
テ更ニ盛大赫灼タル發見ヲ誘促シ遂ニころんばすが阿米利加發見  
ノ大事業ヲ果スニ至レリ(第五十五題及ヒ第五十六題ヲ看ヨ)

ころんばすが阿米利加發見ノ大志ヲ起セシハ畢竟葡萄牙人航海上  
ノ發見ニ棟動セラレタルニ因ルコト毫モ疑ヲ容レズ近時史家ノ考  
證ニ據レバ氏ガ此ノ計畫ヲ胸中ニ起セシハ實ニ其葡國ニ至リタル  
ノ後ニ在リシト云フ抑モころんばすが此計畫タル決シテ新大陸阿

ころんば  
すの初め  
に目的  
を以テ

氏ガ南  
米利加  
海岸ヲ  
見ルニ  
シテ航  
海ノ第  
一ノ目  
的ニ於  
テハ

米利加ヲ發見セントスルノ意ニ出ルニアラズシテ唯黄金寶玉ノ産  
地ナル印度ニ達スルノ捷徑ヲ求ムルニ在リ而シテ葡人が亞弗利加  
ヲ周航シテ以テ印度ニ達セント努力セルハころんばすが已ニ熟知  
スル所ナリシカハ氏ハ別ニ一層容易ナル航路ヲ西ノ方大西洋ニ求  
メ以テ印度ニ達セントハ大志ヲ發スルニ至リシナリ

氏ハ新大陸ニ至リシ時之ヲ印度地方ト思ヘリト云フ其後第三ノ航  
海ニ於テハ始メテ南阿米利加ノ海岸ヲ見ルニ至レリ是レ恰モ葡人  
バすこでがまが印度洋ヲ横絶シまらば「海岸」ニ上陸シ印度ノ貨物  
ヲ齎ラシテ本國ニ歸リタルト年ヲ同フセリ

大ぶりてん國ノ名稱ハ何ニ依リテ起リシヤ

じを「むす第一世英吉利ノ王位」ニ即キテ英蘭及蘇格蘭ハ二國ハ王  
位ヲ統一スルト雖モ兩國尙ホ分立シ各々別ニ國會ヲ立ツ蓋シ王位  
統一後蘇人ハ英人ヲ妬忌スルノ心愈々甚ク第十八世紀ノ初メニ於



兩國合併  
條約  
蘇格蘭  
昌ノ基礎  
ハイカン

第一西班牙  
争トノ戦  
争イカン

(二十七)

第二埃利  
争トノ戦  
争イカン

テ蘇人此感情ヲ抑ユル能ハズ遂ニ戦備ヲ爲スニ至ル然レドモ幸ニ  
平和ノ策行ハレテ止ムヲ得タリ此時兩國ニ於テ各賢者ヲ撰ビ之ヲ  
シテ兩國合併ノ條約案ヲ草セシメ一千七百七年蘇格蘭ノ國會此條  
約ヲ認可ス此條約ニ依リ二王國ヲ合シテ一トナシ大ぶりてんと名  
ク蘇格蘭將來ノ繁昌ハ實ニ此處置ノ致ス所ナリト云フ

### 英吉利國王じよーじ第二世ガ治世間ノ四大戦争トハ 何ゾ

じよーじ第二世ノ治世ニ四大戦争アリ(第一)西班牙トノ戦争ハ一千  
七百三十九年ニ起ル西班牙人亞米利加ニ於テ英人ヲ害スじよーじ  
第二世及ヒウゑるばゝる輿論ニ制セラレ止ムヲ得ス戦ヲ開ク然  
レドモ其効一モアルナシ

(第二)埃地利繼嗣ノ戦争ハ一千七百四十一年ニ起ル埃國王位ハ日耳  
曼帝ちやゝれす第四世ノ女まりやてれさヲ立ツベキカ將タばばり

やノ撰舉侯ちやゝれすヲ立ツベキカヲ決スルニ在リテ固ト英國ノ  
敢テ干渉スベキコトニアラスト雖ヒじよーじ第二世まりやてれさ  
ニ應援シぶろしやノふれでりつく大王及ヒ佛蘭西ノるい第十五世  
ハちやゝれすニ應援ス此戦争亦毫モ其効アルナシ蓋シ一千七百四  
十八年(えいくすちやへる)ノ條約ヲ以テ其局ヲ結ブ而シテ英吉利佛  
蘭西互ニ其畧地ヲ返還セリ

(第三)一千七百四十五年、前ノ王位覬覦者ノ子ちやゝれす、えどうあゝ  
ど佛蘭西ノ應援ヲ得テ其父ノ爲メニ英吉利ノ王位ヲ得ンコトヲ計  
リシカド「かるろでん」ノ戦ニ敗レテ遂ニ其目的ヲ達スル能ハズ

(第四)佛國トノ戦争ハ英佛兩國ノ亞米利加殖民地ニ關係スルモノニ  
シテ合衆國史ニ於テ之ヲ佛蘭西人ト印度土人ノ戦争ト稱ス一千七  
百五十五年ニ起リ一千七百六十年巴里ノ和約ヲ以テ終リテ告ク此  
條約ニ由リテかなだ全土皆英領ニ歸セリ

第三王位  
覬覦者ノ  
争イカン

第四佛國  
トノ戦争  
イカン



### 英國ノ大政治家ピットノ畧傳ヲ叙セヨ

大ニノ人ガ  
政ガリ  
治ガリ  
非ガリ  
力ハナ  
レハナ  
カハナ  
誰ハナ  
誰ハナ

### 亞米利加合衆國獨立ノ起原如何

印紙條例

ピットは第二世ノ晩年ノ政治局面ニ當レル俊傑ヲういりやむびつとト爲スびつとハ世ニ大議員公ト稱セラル一千七百八年ニ生レをつくすふをトト大學第五十一題ヲ看ヨニ於テ教育ヲ受ケ陸軍ニ服役シ後チ國會ニ入り遂ニ政事ヲ以テ自カラ任シ國政ノ要路ニ立チ只管國威ヲ亞米利加及ヒ印度ニ耀サソコトニ盡力セリ蓋シ第十八世紀ノ中葉ニ大ぶりてんガ歐羅巴ノ政治上ニ非常ノ威權ヲ奮ヒシハ是レソビツトトノ聰明ニシテ行政上ニ其長ヲ得ルニ由ルナリ

### ふろしや大王ふれでりつくガ歐羅巴ノ大半ニ抗敵セシ七年戦争ノ結果如何

統衆掃  
領國メ  
シトノテ  
ハトノ大  
誰ハナ

國英政府ニ抵抗シ八年後ニ至リ英政府米國ノ獨立ヲ公認シタリシカバピットはわしんぶどん合衆國政府ノ上ニ立チ國光大ニ耀キ永ク共和國ノ芳名ヲ世界ニ傳フルニ至レリ

ふろしやノ大王ハ何ヲ以テ其本國ヲ圍繞セル澳國、佛國、露國、波蘭、さきそに、及ヒ瑞典等ノ大敵ニ抗シテ屈撓セザリシヤ是レ戰紀中最モ驚クベキ事ナリ然レドモ其委曲ハ姑ク之ヲ措キ本題ノ要點タル戦争ノ結果如何ヲ論ズベシ

(第一)ふれでりつく大王ハ世界屈指ノ良將ハ一ニシテ且ツ戰紀並ニ諸國ノ歴史上ニ於テ一時期ヲ創出セル豪傑ハ一タルコト

(第三)ふろしやハ新ニ一大強國ト成リタルコト是ナリ

爾後ふろしやハ歐羅巴五大國ハ一ニ列シ羅馬帝國實ニ分裂シテ塊

戰紀中最  
モ驚クベ  
キ事ナリ  
然レドモ  
其委曲ハ  
姑ク之ヲ  
措キ本題  
ノ要點タル

結果



地利及ぶるしやハ二大國ト爲リ佛國ノ革命ニ至ルマテ大陸ノ國カ  
ノ平均ヲ保テリ

(六十七)

### 第十八世紀ノ初マテ露士亞國ノ振ハザリシ原因如何

第十八世ノ初マテハ露士亞ノ事蹟歐羅巴ノ歴史中ニ記スベキモノ  
ナシ是如何ナル故ゾヤ

露士亞人ハ「すれ」ぶ族ニ屬シ其才智ありやん大族中他ノ種族ニ劣  
レルコトナク且ツ夙ニ文明ノ途ニ上リ第九世紀中北人るりつくガ  
露士亞國ノ基本ヲ建テ第十世紀ニハ國民悉ク希臘教旨ヲ奉シテ基  
督教徒トナレリ

然ルニ露士亞ノ毫モ進歩セザリシハ抑モ故アリ蒙古ノ蠻族中央亞  
細亞ニ居リ慄悍猛烈常ニ歐羅巴ニ突侵シテ奪奪ヲ逞フス而シテ露  
士亞ハ正ニ其衝ニ當ルヲ以テ數々其侵撃ヲ受ケ災厄ヲ蒙ル第十三  
世紀ニ至リテハげんぎすかんニ屬スル韃靼人ノ爲メニ國中ヲ蹂躪

蒙古ノ蠻族  
ニ對シテ  
何ナセ

げんぎす  
かんニ屬ス

スル韃靼  
人イカ

(七十七)

### 露士亞大帝ピ「た」ハ如何ナル素志ヲ果サシガ爲メ ニ西遊セシカ并ニ西遊中勉學ノ狀況ヲ述ベヨ

セラレ爾後其羈輓スル所トナルコト二百有餘年且ツ波蘭人及ビ  
すわにや人ハ國ノ西境ヲ限リテ魯西亞ヲシテ全ク孤立セシメ歐洲  
ノ事件ト相干涉スルコト勿ラシメタレバナリ

初テピ「た」ノ胸裏ニ發生シタル意見ハ露士亞ニ良港ナキハ其國  
力微弱ノ一原因ナリト云フコトニテアリシガ如シ一千六百九十七  
年土耳其人ヨリ「あぞふ海」ヲ奪ヒ黑海ニ根據ヲ得是ニ於テ更ニ決心  
シテ土耳其ヲ威服スルニ足ルベキ一艦隊ヲ編制セントセリ

帝此素志ヲ果サント欲シ乃チ國ノ政事ヲ一人ノ老貴族ニ委シ躬親  
カラ造船ノ術ヲ學ビ且ツ其大企圖ヲ行フニ要用ナル學識ヲ得ン  
ヲ欲シ和蘭及ビ英吉利ニ遊ブ其和蘭ノ「さ」だむ港ニ在ルヤ自ラ造  
船職工トナリ毎土曜日ノ夜賃銀ヲ受ケ毎日自炊シテ飲食ヲ調ヘ又

西遊



帝ノ學ハ  
何々ノ

亞米利加  
ヨリ佛蘭  
西ニ來シ  
タルニ  
如何ノ  
結果ハ

(八十七)

網帆ノ製造鍛冶ノ職業並ニ外科醫術ハ一班ヲモ學ベリ一千六百九十八年ニ英蘭ニ赴キウゐリヤハ第三世ハ款待ヲ蒙リシト雖モ他ハ公侯ノ如ク饗宴ニ光陰ヲ浪費セズ努メテ船渠ヲ巡覽シ細ニ造船ハ事ヲ點檢セリ

佛國ノ革命ヲ評シ併セテるい王ヲ刑シタルハ社會ト政治上ニ取リテ利害如何

民主主義ノ思想ハ始メテ佛蘭西ニ發シタリト雖モ始メテ之ヲ實際ニ施シタルハ亞米利加ナリ亞米利加ヨリ佛蘭西ニ來シタル刺衝ノ結果ハ佛蘭西革命トナリ封建制度及天授王權ノ濫用ニ抵抗シテ激烈ノ舉動ヲ爲シタリ此洪水ニ由リテ善者ヲ掃蕩シタルコト少カラザルハ決シテ疑フ可カラズト雖モ一千七百八十九年ヨリ一千七百九十五年ニ至ル恐ルベキ時代ノ罪惡暴虐ハ當時自由ヨリ得タル永固ノ利益ヲ以テ皆之ヲ償フニ餘リアルコトハ亦疑テ容レザルナリ

此革命後  
歐洲人民  
ノ權利ハ

外國ノ交  
渉ヲ招キ  
シ原因イ

政府ノ内  
政ノ有様  
イカニ

而シテ此革命ノ影響ハ延テ歐羅巴各國ニ波及シ或ハ政治上ニ大變化ナキ國ニ於テモ著シク社會上ノ變革ヲ生シタルアリ概シテ之ヲ察スルニ此革命後歐洲各國ノ人民ガ前日ノ如ク全ク其權利ヲ蹂躪セラレタルモノ嘗テ之レアルナシ以テ此革命ヨリ生シタル大體ノ利益ヲ知ルベシ

佛蘭西人民ガ王(るい第十六世)ヲ刑シタルノ一舉ハ恰モ歐羅巴全洲トノ戰爭ヲ公布スルニ等シキモノニシテ英吉利和蘭西班牙日耳曼瑞典及ヒ露士亞ノ如キモ遂ニ兵ヲ擧ケテ佛國ヲ伐チタリシ佛軍ハ此等諸國ノ兵ト處々ニ戦ヒ或ハ敗績セルコトアレド概シテ勝利ヲ收ムルコト多ク常ニ進テ同盟軍ヲ撃テリ然レドモ内國ノ騷亂ニ際シ如此外國ノ交渉ヲ招クニ至リタルハ政治上ニ取リテ大ナル不利益ト云フベシ

加之爾後政府ノ内政ハ愈々殘酷ニシテ共和政府ノ面目ヲ汚シ殆ノ



暴徒ハ山ヲ指シテ  
ス該黨ハ  
だん、人、を  
す、び、る、ま  
る、及、リ、チ  
三傑之ヲ  
統率セリ

(九十七)

### 英國ガ印度ノ領地ヲ得タル所以如何

英吉利、佛蘭西、兩國ガ印度ノ領地ヲ得ンガ爲メニ大ニ構戰シ英吉利

百二十二  
ト之レガ名譽ヲ抹殺セリ今其一斑ヲ舉ケンニ當時革命ノ旋風ヲ起シタル暴徒ハ宗教上ノ信仰ヲ廢シ道理ナルモノヲ尊ビ且ツ日曜日ノ禮拜ヲ止メ殆ント鮮血ヲ禮拜スルニ至リ皇后まり、あんどあぬつど皇妹をりざべす及ビ其他高位ノ士數百人悉ク其戮スル所トナル且ツ日々巴里ノ斬頭臺ニ上ルモノ七十乃至八十ニ下ラズ流血淋漓トシテ道ニ溢レシカバ溝渠ヲ穿テ之ヲ通ズ又じろんでいすと黨ノモノ若クハ嫌疑者ハ或ハ之ヲ殺戮シ或ハ之ヲ獄ニ投ス當時軟柔ナル婦人がマノアタリ此恐ルベキ慘狀ヲ視ルモ夷然坐シテ編物細工ヲ爲スコト恰モ劇場ノ土間ニ在ルガ如クナリシトハ  
王ヲ刑シタル慘酷ノ餘響此ニ至リテ極レリト云ベシ又以テ此ノ一舉ガ社會ニ及ボシタル害毒ノ一斑ヲ見ルベキナリ

印度ヲ征  
シテ英  
領ニシ  
テ之ヲ  
雄略セ  
リ

(十八)

### なほれをんノ性質如何

遂ニ勝ヲ得タルコトハ英吉利國王じよじ三世ノ治世中ニ在リ而シテ英國ガ印度ニ於テ始メテ大ニ權力ヲ振フヲ得タルハくらゐ素ノ力ニシテ其後之レニ次テカヲ印度ニ盡シタルモノヲうあゝれんへすちんぐすと爲ス此等ノ英雄ハ音ニ佛蘭西人ヲ征服セシノミナラズ印度ノ諸王ヲモ次第ニ征服シテ其領地ヲ英吉利ノ版圖ニ入レシコト甚ダ少カラズ故ヲ以テ現今英吉利ハ印度ノ人民無慮ニ億ヲ統轄セリ  
なほれをんノ性質ニ關シテハ諸家ノ見ル所區々トシテ氷炭相容レズ是レ凡ソ人ヲ評スル各其標準トスル所大ニ異ナルガ故ニシテ亦怪ムニ足ラザルナリ今單ニ智力上ヨリ觀察ヲ下シ俗才即チ將帥ノ才團結ノ力行政ノ畧ヲ以テ俗世ノ目的ヲ達シタル人トシテ評スレバなほれをんハ古今無雙ノ英傑タルコト疑ナシ然レドモ其品行ハ

なほれをんノ事蹟  
ハ全ド  
歐巴  
洲ニ  
關シ  
テ以  
テ全  
能ク  
シテ  
能ク  
子ク  
所ニ  
及ビ  
テ其  
邦人  
アリ



已ニ大抵ハ  
セリノ事蹟ニ  
ガズニ説  
ハ詳ニ説

品行ハ如  
何末路ハ如  
何

新憲法ト  
ハ何ゾト

(一十八)

善良ナルモノト云フベカラズ亦大ニ人ニ優ル所アリト云フベカラズ何ソトナレバ己レニ克ツコト能ハサレバナリ吾人ハなぼれをんガ成セシ所ノ事業ハ當時爲サルベカラザルノ成績ナリト言ハシノミ其他ノ點ニ至リテハ世界ノ英雄中なぼれをんノ如ク能ク偉功大勳ヲ成シタルモノナク又其末路ハなぼれをんホド哀ハレハカナキ者ハナシ(なぼれをんハ一千八百二十一年五月五日せんとへれな島ニ死ス)

百二十四

なぼれをん(第三世)ガ佛蘭西政府ヲ篡奪セシ謀畧ノ一端ヲ舉ゲヨ

一千八百四十八年十一月國會新憲法ヲ制定シ行政權ヲ共和政府ノ大統領ニ委テ大統領ハ全國ノ人民ニ撰舉セラレテ四年ノ間其職務ムルモノトス是ヨリ先キるいなぼれをんハせいん州ノ代議士ニ撰ハレシヲ以テ佛蘭西ニ歸リ是ニ至リテ自カラ薦メテ大統領ノ候

國家ノ博  
トハ何

補者トナリ翌月佛蘭西人民五百五十萬人ノ投票ヲ得テ遂ニ大統領トナレリ

なぼれをん就職ノ初メヨリ自カラ佛國ニ君臨セント欲シ頗リニ陰謀ヲ運ラセシコト實ニ疑フベカラズ其陰謀トハ佛人ノ所謀國家ノ搏撃ニシテ即チ兵力ヲ以テ殺戮ヲ恣ニシ深夜己レニ反對スル者ヲ逮捕スルニアリ一千八百五十一年十二月二日ノ夜此謀ヲ施行ス其之ヲ施スヤ極メテ隱微ナリシヲ以テ人之ヲ知ルナク翌朝ハ巴里己ニなぼれをんノ掌裡ニ在リ人々揭示場ニ至リなぼれをんガ國會ヲ解散シ普通撰舉ヲ恢復シ及巴里ハ軍法ヲ以テ治ムルトノ布告ヲ讀ミテ始メテ之ヲ知レリ四日ニ至リ巴里ノ暴民蜂起セシガ兵力ノ爲メニ忽チ鎮壓セラレ抗敵者八百餘人彈丸ノ爲メニ斃ル翌年(一千八百五十二年一月十四日)新ニ憲法ヲ制定シ之ニ由リテ十年間佛蘭西ノ政柄ヲ舉ゲテなぼれをんノ掌裡ニ委テタリ

近世史

百二十五



なほれを  
如何に  
成功  
原因

(二十八)

此非常ナル篡奪ニ於テ此ノ如キ奇功ヲ奏シタル所以ハ是レ唯佛蘭  
西ノカ久シク改革無政ノ境遇ニ在リシカ故ニ道義敗類シ元氣沮喪  
シタルニ依ルノミ當時佛蘭西人カ已ニ政治自由ノ精神ヲ失ヒタル  
コトハなほれをんガ七百萬以上ノ投票殆ンド佛蘭西ノ總投票ヲ以  
テ其撰ハレテ帝トナリシコトヲ見テモ明白ナリ

なほれをん(第三世)ガふるしヤト開戦セシ原因及ビ結  
果ヲ語レ

原因

ふるしヤトノ戦争ノ起因ハふるしヤ王ノ親族ハ一へんぞるれるん  
州ノれをばると自ラ西班牙王ノ候補者タラントセシニ在リト雖モ  
其實ハなほれをん第三世ガふるしヤノ日ニ隆盛ヲ致シ日耳曼諸邦  
ノ盟主ト爲リタルヲ看テ大ニ之ヲ嫉妬スルニ因ルナリ

一千八百七十年十月なほれをん第三世戦争ヲ宣布スルヤ自ラ以爲  
ラク南部日耳曼ハ縦ヒ實ニ佛蘭西ニ應援セザルモ必ズ就外中立ノ

此際外  
立チシ  
ハ何々  
くびす  
ま

佛國ノ上  
將ハま  
まほん  
ナ

和親ノ條  
約ハ佛國  
ニ取リテ  
不利ヲ知

地ニ立ツヘシト然ルニ何ソ圖ラン大ニ失望ヲ來セリ蓋シ南北兩邦  
互ニ相軋ルガ如キ細事ハ全ク消失シ南部日耳曼諸邦多クハ此戦争  
ノ本質ハ多年屈辱ヲ受ケタル日耳曼ニ對シ佛蘭西ガ傲慢輕侮ノ情  
ヲ逞フスル者タルコトヲ看破シ喜ビテふるしヤト合縦シタリ此戦  
争ノ際獨リ塊地利及其他塊地利家ノ版圖ノミ局外ニ立テリ  
ふるしヤ王ハびすまノくト相謀リ又近世卓絶ナル兵家ノ一人タル  
もるとけヲ擧グテ軍機ニ參セシメ百萬ノ兵ヲ率ヒテ戦地ニ臨ミタ  
リ而ルニ佛人ハ自カラ己レノカヲ恃ミ一舉シテ柏林城下ニ誓ヲ成  
サシムベシト冒信シ進ンデ日耳曼ノ國境ニ入レリ己ニ而シテうあ  
いせんふるぐ「うえーると」せだん等ノ戦ニ於テ佛人悉ク敗績ス幾ク  
モナク巴里ノ攻圍トナリ「めつ」ノ降服トナリ「巴里」ノ降服トナリ遂  
ニ一千八百七十一年五月十日佛蘭西及ふるしヤ和親ノ條約ニ調印  
ス之ヲ「ふるんくふを」トノ條約ト稱ス其條約佛國ニ取リテハ甚ダ



不利益ニシテ佛蘭西ハ日耳曼ニあるさす及るゝれんノ兩州ヲ讓與  
 シ且ツ五十億フランクノ償金ヲ拂ヘリ  
 此戰爭後日耳曼ノ大半ハ再ヒ合シテ一國トナリ而シテ澳地利及其  
 屬地ハ相合シテ別ニ一國ヲ成シおうすどろはんがりヤ王國ト稱ス  
 ぶろしヤノ勝利ハ獨リ其國ノ勝利タルノミナラズ實亦日耳曼ノ勝  
 利タリ思フニ澳地利ヲぶろしヤノ戰爭ハぶろしヤヲシテ日耳曼中  
 ノ第一等ノ地位ニ進マシメ佛蘭西トぶろしヤノ戰爭ハ日耳曼中  
 テ歐羅巴中ノ第一等ノ地位ニ進マシメタリ

萬國歴史問題 答案 終

明治廿九年九月廿五日印刷  
 明治廿九年十月九日發行

(定價金十錢)

編纂者

前田 儀 作

發行者

上原 才 一 郎

發賣元

上原 書店

大賣捌

松 榮 堂 書店

同

吉 岡 平 助

印刷者

山 本 鐵 次 郎

印刷所

株式會社 秀 英 舍



版權所有

東京市神田區裏神保町六番地  
 東京市日本橋區橋町一丁目  
 東京市京橋區西紺屋町廿六七番地  
 東京市京橋區西紺屋町廿六七番地



# 増訂第十版と發行す

前大學教授木村正辭先生序○飯田永夫著

## 日本文典問答

美本全一冊  
正價金十二錢  
郵税金二錢

眇乎たる一小冊子を以て漫に天下の重顧を荷ふもの豈偶然ならん哉發行以來九版萬餘を賣盡し今や補訂を加へ茲に十版を發刊す紙質裝釘に留意し以て江湖の眷顧に酬ひんとす請ふ愛讀を垂れ玉

(日本新聞評) 文典に貴ふ所は意義簡明にして就き易く覺り易きにあり近來の文典學者多くは己か才學を衒はんと欲して知らず識らず煩擾に陥り文典を著わすの目的荒む此編幸に此病を避け問答體中に善く自國の文法を説出す初學者の爲めには寔に入徳の門なり

(國會新聞評) 近來日本文典の上梓せらるゝもの幾種なるを知らず然れども多くは古文復古の精神にて編成したるものなれば普通文用若くは獨學者の爲めに便ならざるの憾みなきにしもあらず此書は一々西洋文典を模倣として親切に問答にて説明し且つ解剖の法式を示して例題をも掲げたれば初學者の練習書として利益あるべし

### 發行所

東京市神田區  
裏神保町六番地

### 上原書店



# 増訂第十版と發行す

前大學教授木村正辭先生序○飯田永夫著

## 日本文典問答

美本全一冊  
正價金十二錢  
郵税金二錢

眇乎たる一小冊子を以て漫に天下の重顧を荷ふもの豈偶然ならん哉發行以來九版萬餘を賣盡し今や補訂を加へ茲に十版を發刊す紙質裝釘に留意し以て江湖の眷顧に酬ひんとす請ふ愛讀を垂れ玉

(日本新聞評) 文典に貴ふ所は意義簡明にして就き易く覺り易きにあり近來の文典學者多くは己か才學を衒はんと欲して知らず識らず煩擾に陥あり文典を著わすの目的荒む此編幸に此病を避け問答體中に善く自國の文法を説出す初學者の爲めには寔に入徳の門なり

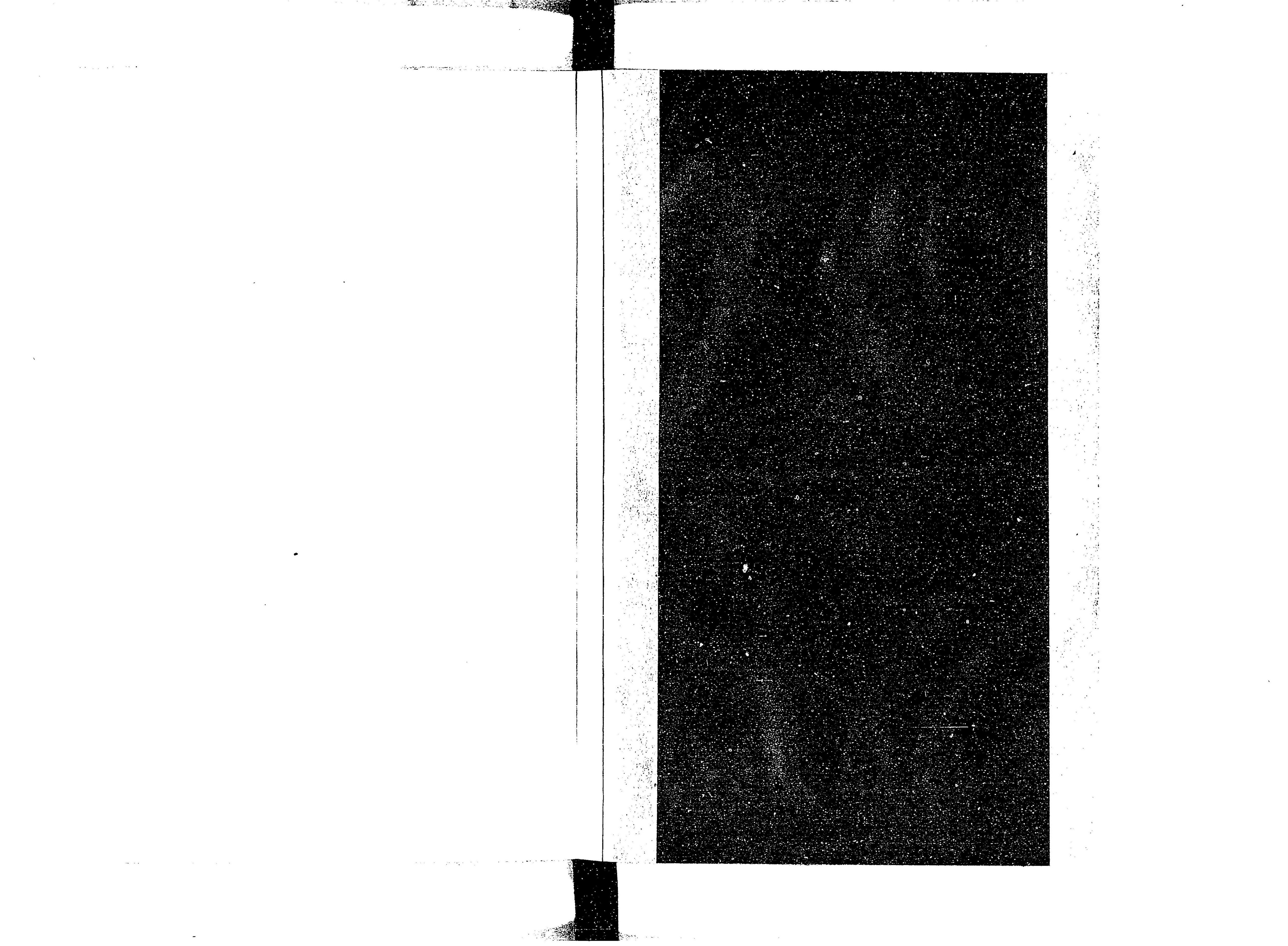
(國會新聞評) 近來日本文典の上梓せらるゝもの幾種なるを知らず然れども多くは古文復古の精神にて編成したるものなれば普通文用若くは獨學者の爲めに便ならざるの憾みなきにもあらず此書は一々西洋文典を摸型として親切に問答にて説明し且つ解剖の法式を示して例題をも掲げたれば初學者の練習書として利益あるべし

### 發行所

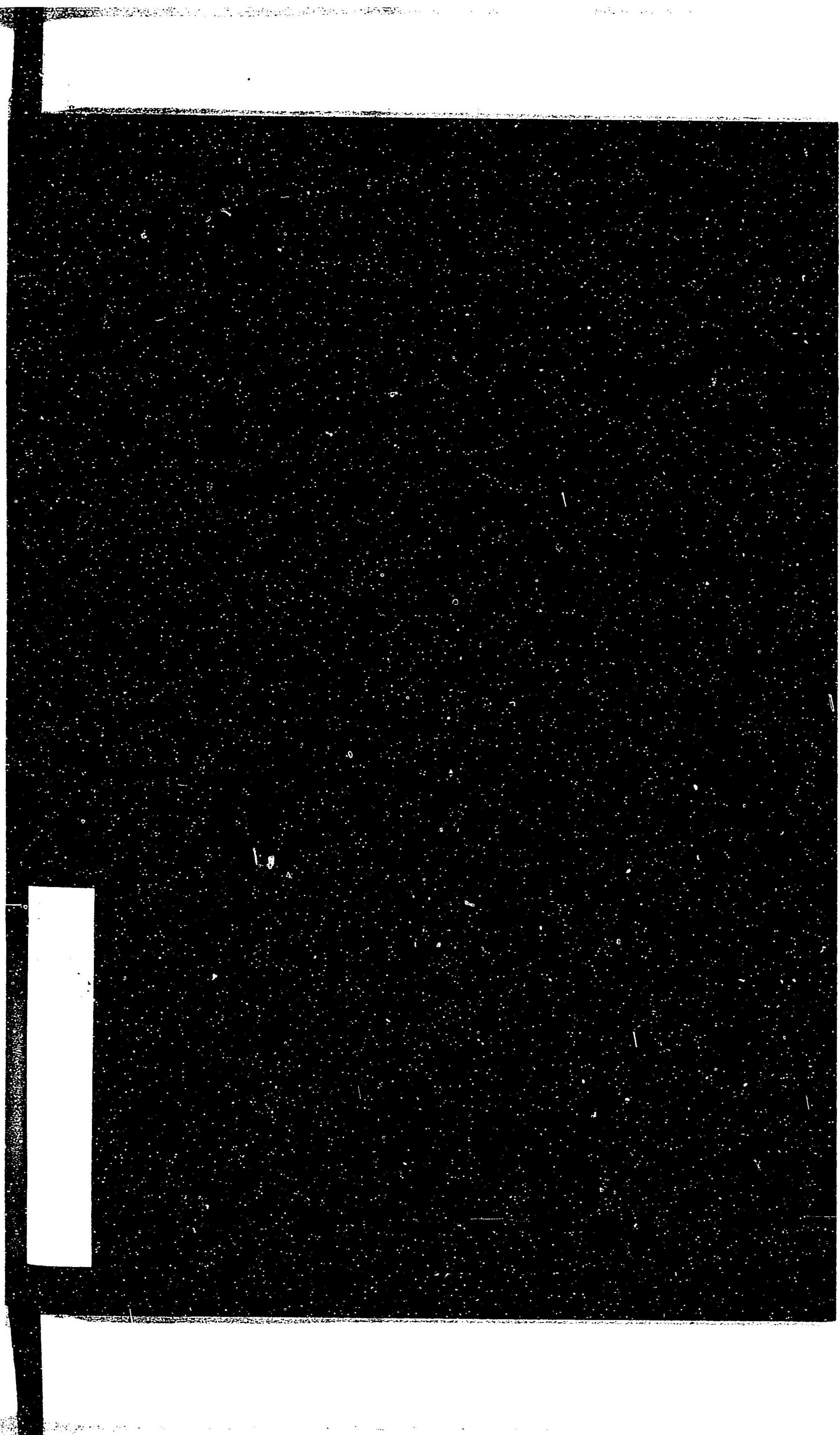
東京市神田區  
裏神保町六番地

### 上原書店











特 20

174

万国歴史試験問題

答案

国立国会図書館

049656-000-4

特20-174

万国歴史試験問題答案

前田 儀作/編

M29

BEM-0359

